

平成26年度

教育・研究活動報告書

(取組成果のご報告)

For all the students



福岡工業大学・福岡工業大学短期大学部・福岡工業大学附属城東高等学校



九州No.1の 教育拠点を目指して

本学園の運営につきましては、平素より格別のご理解とご支援をいただき深く感謝申し上げます。

さて、平成17年4月、私立学校法は「学校法人が急激な社会状況の変化に適応すること」を主眼として大幅な改正が行われました。学校法人が様々な課題に対して主体的・機動的に対応することを促すものです。

当年度(平成26年度)は、その改正私学法が施行されてちょうど10年目の節目にあたります。そこで、この「教育研究活動報告書」の編集に際しては、その転換点から今日まで、「本学園は当該法改正の趣旨に沿って諸活動を行ってきたか、その成果創出はどうであったか」の視点を加えて評価・編集を行いました。そこでは、5つの総合的目標(①教育力発揮、②研究高度化、③就職力強化、④募集力強化、⑤経営・財務力強化)の全てにおいて、理事会・教職員協働のもとに全学をあげて取り組み、相応の成果を創出し、「志願者の継続的増加、3設置校全ての経営安定化」として結実していると評価しています。

もとより、私たちは、この現状に満足することなく、いっそうの改革・改善を推し進め、社会の変革に適応力の高い、強い人材の育成によって、地域社会さらには国際社会に貢献し得る「九州No.1の教育拠点」の形成を目指してまいります。

この教育研究活動報告書は、学生・生徒・保護者の皆様、そして学校運営にご支援をいただく企業・地域の皆様に、私どもの教育・研究・経営及び財務の諸活動の取組とその成果について具にご説明し、いっそう本学園をご活用いただくことを目的としています。

おって、この報告書を通じた関係の皆様と本学園の双方向のやりとりは、私どもが諸活動を磨き高めるには欠くことのできない貴重な機会であると存じます。どうか忌憚のないご意見を賜りますようお願いいたします。

平成27年6月1日

福岡工業大学・同短期大学部

学 長 下村 輝夫

INDEX

I.ごあいさつ	1
II.主要な取組成果	
(1)入学志願者・入学者の状況	3
(2)教育力の発揮	5
(3)研究の高度化	7
(4)就職力の強化	9
(5)短期大学部の取組	11
(6)附属城東高校の取組	13
(7)経営力強化の取組	15
(8)学園運営に対する外部評価	17
III.学園のプロフィール	
(1)学園の沿革	19
(2)マスタープランの概要	21
(3)キャンパスの概要	23
IV.教育改善・研究高度化・キャリア教育・就活支援の具体的取組状況	
(1)教育改善の取組	25
(2)研究高度化の取組	27
(3)キャリア教育・就活支援の取組	29
(4)グローバル化の取組	31
(5)ラーニングサポートの取組	33
(6)キャンパスライフサポートの取組	35
(7)産業界・他大学・地域社会連携の取組	37
V.バックデータ集	39

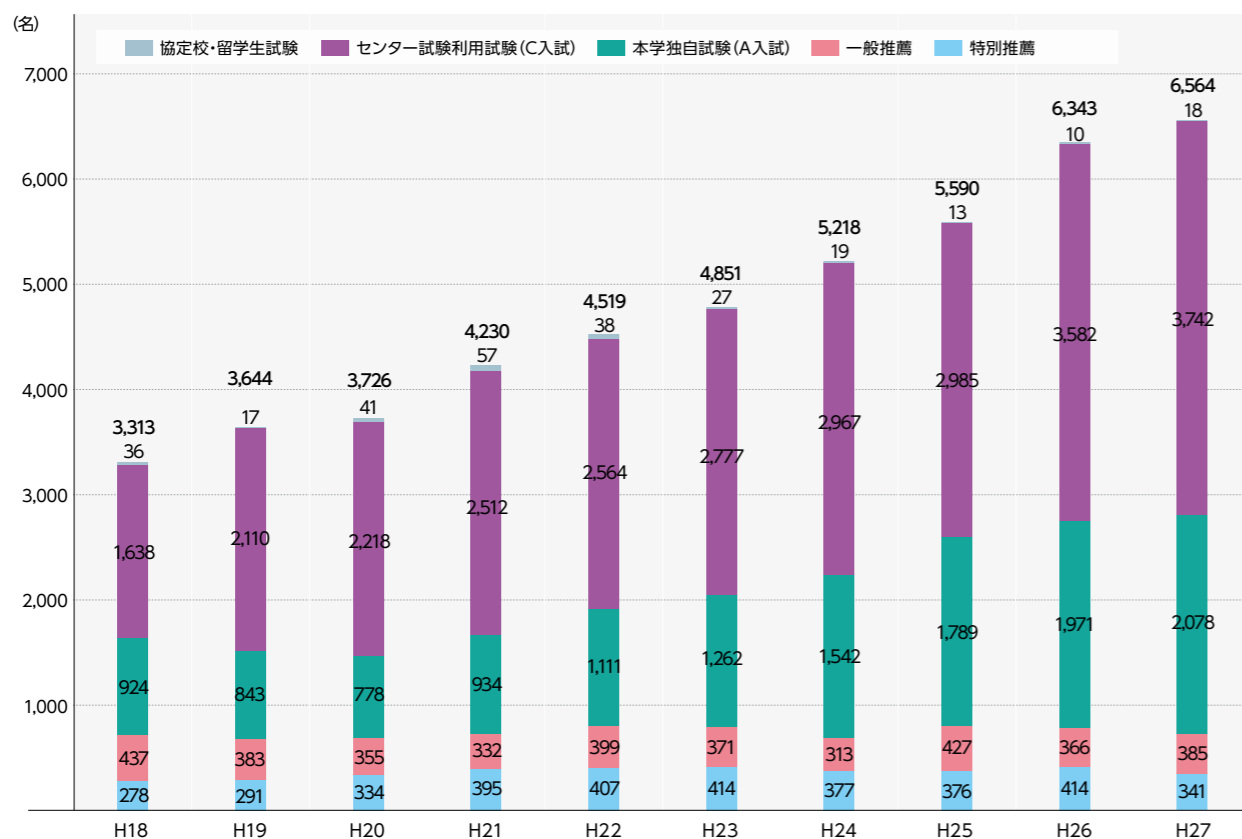
大学は、9年連続で入学志願者が増加しています。 入学者も安定的に確保しています。

全国の私立大学の約4割が入学定員を確保できない中、特に九州・山口地区ではたいへんな苦戦を強いられている中で、本学は順調に入学志願者を増加させています。従って、毎年の入学者も所定人員を安定的に確保しています。

一般入試（大学入試センター試験、本学独自入試）の入学志願者が大幅に増加

平成18年度に3,313名だった入学志願者は、平成27年度（当年度）入試では6,564名となり、約2倍に増加しました。入学志願者は、九州各県のみならず、山口県や中国・四国地方からの出願が増えるなど、いっそう広域化しています。

大学 入試種別ごとと志願者の推移



▶ 全ての入試の実入学志願者の伸びは平成18年1,924名から平成27年3,061名に増加（1.59倍）

受験生の不安解消、高校や保護者からの信頼向上に向けて様々な取組を実施

受験生が入学試験前に大学での学習の様子を理解し不安を解消するために、模擬講義を数多く実施しました。また、オープンキャンパスでの在學生によるキャンパス案内やキャンパスライフの実体験報告、在學生の出身高校訪問による修学状況報告を行いました。



入試相談会



モノづくり実体験



プログラミング実体験

▶ 平成26年度オープンキャンパス開催回数5回／来訪者3,062名

高校や企業からの人材養成ニーズに対応して、入学定員を増員

入学志願者が連続して増加し、入学者も高位で安定している現状を踏まえ、文部科学省に対して入学定員増員の申請を行い、認可されました。これは、地元企業等の人材養成ニーズにも適合するものと考えています。

学科別入学定員の増加

		(名)		
		平成26年4月	平成27年4月	増員数
工学部	電子情報工学科	80	90	10
	生命環境科学科	80	90	10
	知能機械工学科	100	110	10
	電気工学科	80	90	10
情報工学部	情報工学科	120	130	10
	情報通信工学科	80	90	10
	情報システム工学科	80	90	10
	システムマネジメント学科	60	65	5
社会環境学部	社会環境学科	150	160	10
合計		830	915	85



新定員のもとでの入学式の様子（平成27年4月2日）

▶ 平成26年度の学部総定員（3,380名）は、平成30年度に3,720名に拡大します。

教育改革の取組が大きく評価され、国等の支援事業に数多く選定・採択されました。

本学の教育改善・改革の取組が高い評価を受け、選定・採択難易度の高い国等の支援事業に数多く採択されました。これらの良好な採択実績は過年度から継続しており、大学ランキング等で全国屈指の水準として評価されました。

文部科学省大学支援事業採択数ランキングで全国屈指の評価

文部科学省大学支援事業採択数ランキング「サンデー毎日(1月4.11日新春合併号)」で、全国私大5位(九州1位)に入りました。「グローバル時代を生き抜く大学、面倒見が良く就職に強いとの評価が高い。志願者を増やし続けている」とコメントされています。

■文部科学省大学支援事業採択数ランキング「サンデー毎日(2015年1月4・11日新春合併号)」

順位	大学名	所在地	選定件数合計	私立大学等改革総合支援事業													
				国際化拠点整備事業(グローバル30)	グローバルCOEプログラム	グローバル人材育成推進事業	大学の世界展開力強化事業	高度専門職業人育成事業	日中韓等の大学間交流を通じた	地(知)の拠点整備事業	大学教育推進プログラム	大学教育再生加速プログラム	産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業	大学間連携共同教育推進事業	タイプ1(教育の質的転換)	タイプ2(地域発展)	タイプ3(産業界・他大学等との連携)
1	芝浦工業大	東京	10	○		○			○	○	○	○	○	○	○	○	○
2	早稲田大	東京	9	○	○	○	○		○		○						
	金沢工業大	石川	9						○	○	○	○	○	○	○	○	○
4	上智大	東京	8	○	○	○	○				○						
5	明治大	東京	7	○	○	○	○				○						
	立命館大	京都	7	○	○	○	○				○						
	関西学院大	兵庫	7	○		○	○				○						
	福岡工業大	福岡	7								○	○	○	○	○	○	○
9	共愛学園前橋国際大	群馬	6			○	○				○	○	○	○	○	○	○
	杏林大	東京	6			○	○				○						
	慶應義塾大	東京	6	○	○		○				○						
	京都外国語大	京都	6								○	○	○	○	○	○	○
	京都産業大	京都	6			○					○	○	○	○	○	○	○
	関西大	大阪	6								○	○	○	○	○	○	○
	立命館アジア太平洋大	大分	6	○		○	○				○						

平成26年度私立大学等改革総合支援事業の4項目全て選定

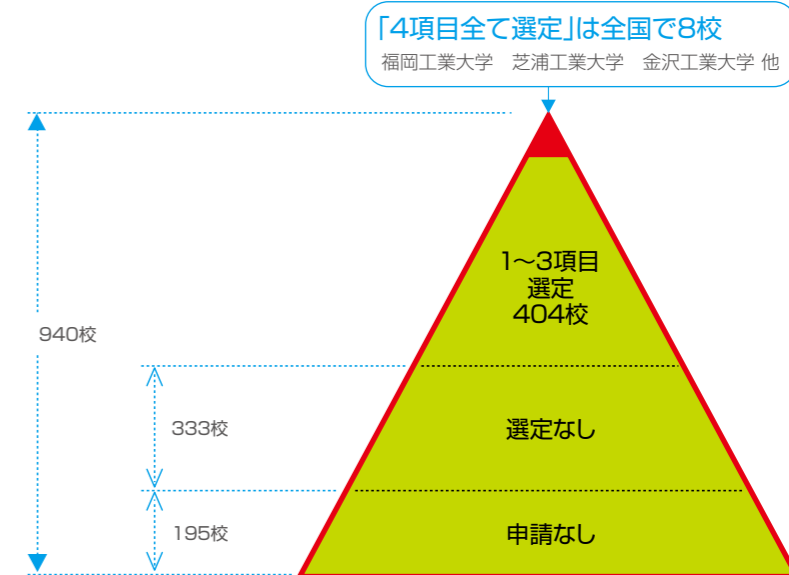
この支援事業は、文部科学省と日本私立学校振興・共済事業団が一体となって、私立大学の①教育の質的転換、②地域発展、③産業界・他大学との連携、④グローバル化を促進するものです。4項目全てにおいて選定された大学等は、全国約940校のうちわずか8校でした。

■目的別支援対象校の選定数(当初選定枠)

- ①教育の質的転換……………300校
- ②地域発展……………150校
- ③産業界・他大学等との連携…50校
- ④グローバル化……………100校

■全国私立大学等(大学・短大)の複数項目選定状況

全国私立大学等(940校)のうち745校が選定の申請を行い、そのうち412校が1項目以上の選定を受けました。4項目全ての選定を受けた大学は本学を含め8校でした。



アクティブラーニングの取組は、文部科学省「大学教育再生加速プログラム」に選定

自律的に考え、行動し、様々な分野で創造性を発揮できるような人材(実践型人材)を育成するために、アクティブラーニングを全学的に展開します。学生の「知識定着」と「能動的な学修態度の涵養」の実現を図る取組です。



▶ 本事業の実施により、学園全体に「教授方法の質的転換」を図ります。

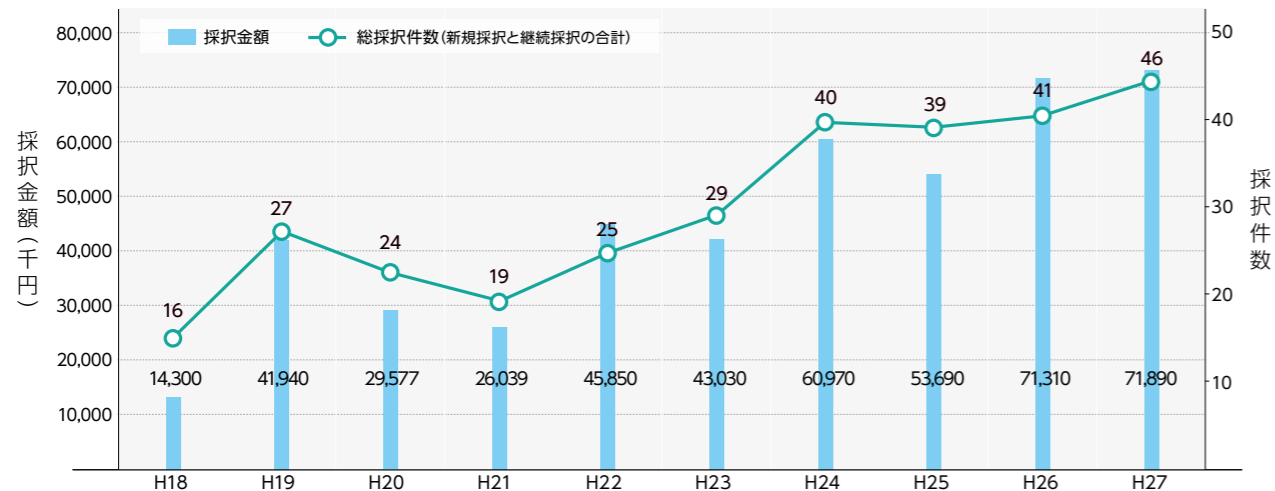
研究高度化の進展に伴い、外部研究支援事業の採択は右肩上がりに増加しています。

我が国の最も広範な研究支援事業は日本学術振興会「科学研究費」です。この研究費の採択は右肩上がりに増加しています。また、文部科学省の「戦略的研究基盤形成支援事業」や「施設・設備整備費補助金」等の大型補助事業にも数多く採択されています。

日本学術振興会科学研究費補助金の採択件数・金額はともに過去最高

採択件数・金額ともに毎年増加しています。近年3カ年(平成24～26年度)の採択件数は、その前の3カ年(平成21～23年度)の1.6倍になりました。今年度は、医学・工学連携や防災・減災などの社会的な課題解決に貢献する研究テーマが多く採択されました。

■ 科研費推移グラフ(H18-H27)



▶ 科研費採択件数は毎年増加(平成26年度は41件採択。平成27年度は過去最多の46件採択) 24～26年度の3カ年合計で120件採択。平成21～23年度(73件)の約1.6倍

■ 過去2カ年の特許登録実績

国内特許

- 水のエネルギーを電力に変換する方法及び装置
- ダイヤモンド切削工具及びその製造方法
- 安全運転促進システム
- 塗布装置
- 三次元情報計測装置及び三次元情報計測方法

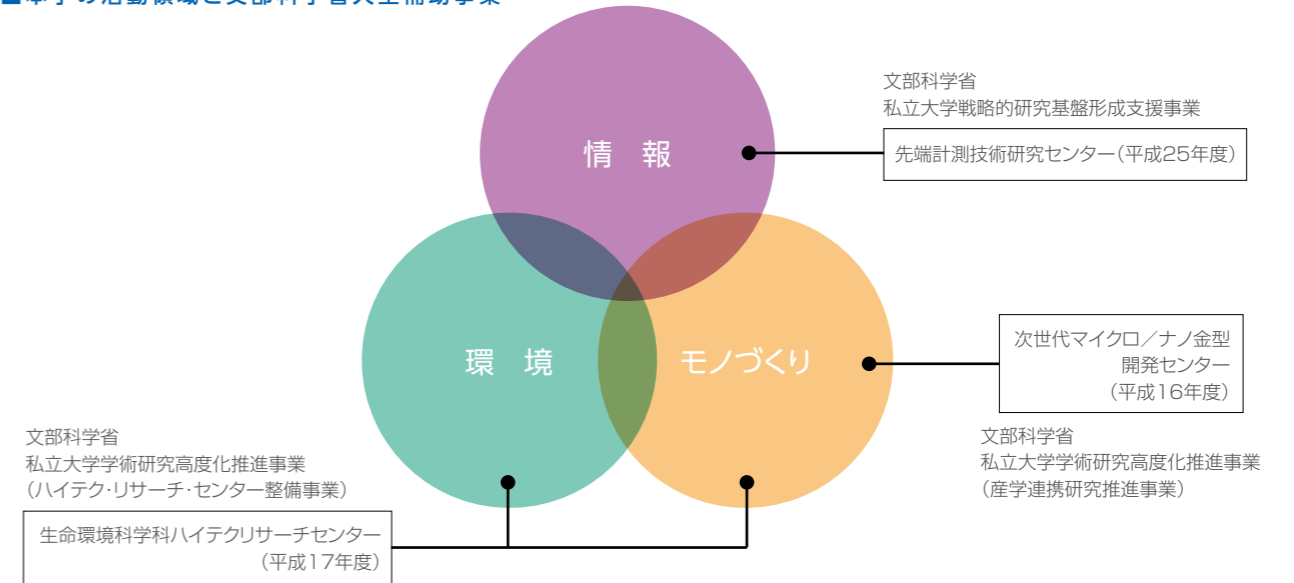
国外

- 車両安全運転促進システム (米国)
- コロダイルダンパー (米国)
- 三次元情報計測装置 (中国)

活動領域(情報・環境・モノづくり)全般において文部科学省大型補助事業に採択

平成16年度「マイクロ/ナノ金型開発センター」の採択をはじめに、今日まで、4件の大型研究プロジェクトが、採択難易度の高い研究支援事業に採択されました。いずれの研究事業にも、我が国の科学技術発展・振興への貢献等の大きな期待が寄せられています。

■ 本学の活動領域と文部科学省大型補助事業



3研究所は、高精度の分析・測定ができる最先端研究機器を装備

研究活動の活発さ、外部研究支援事業採択実績の良好さ等の活力は、研究者の研鑽とともに、高度な研究環境の整備によります。近年は、電界放出形走査電子顕微鏡(百万倍拡大顕微能力)、モーションキャプチャー装置、高周波ネットワークアナライザを整備しました。

■ 近年、導入した研究機器



◀ 電界放出形走査電子顕微鏡 (FE-SEM)
金属や半導体、セラミック試料などを100万倍の倍率まで拡大し、ナノレベルで観察・分析します。



◀ モーションキャプチャー装置システム
人の関節や筋肉の細かい動きなどを3次元データとして確認し医療工学で活用します。

※ 電界放出形走査電子顕微鏡 (FE-SEM) とモーションキャプチャー装置システムは、文部科学省補助採択事業として導入



◀ フーリエ変換赤外分光光度計 (FT-IR)
赤外線の吸収度合をレーザー光で調べることで、有機化合物の構造を推定する分析装置です。



◀ 原子間力顕微鏡 (AFM)
試料と探針の原子間に働く力を検出し、大気中や液体中もしくは高温から低温まで、様々な環境で金属加工物等の目に見えない凹凸を測定できます。

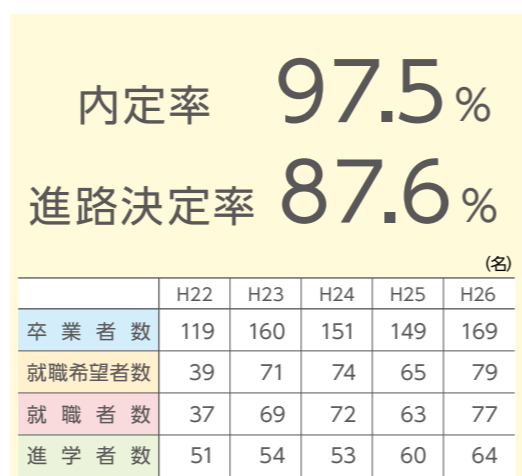
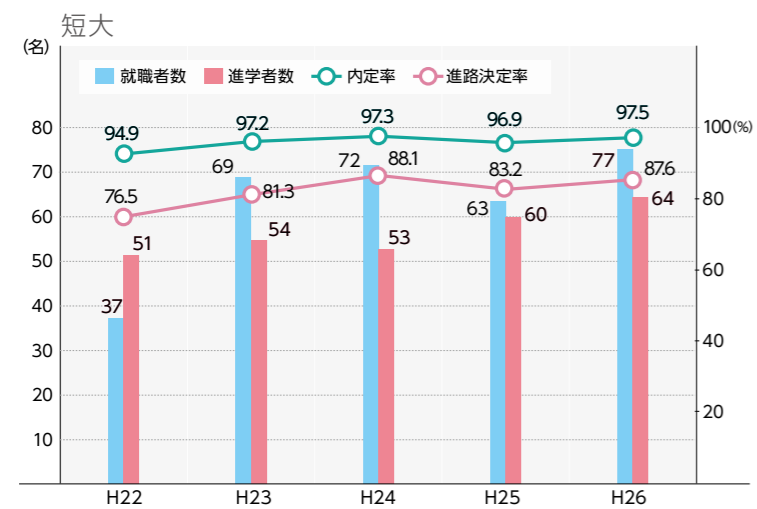
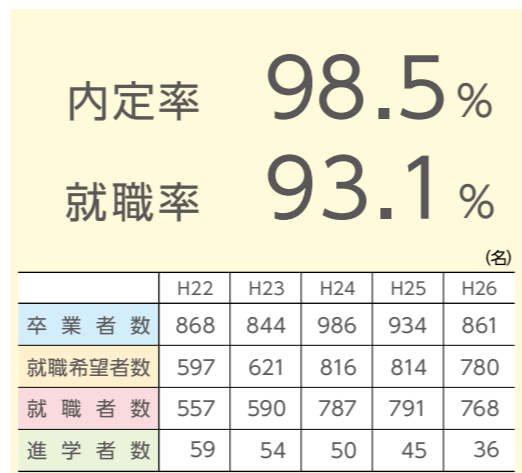
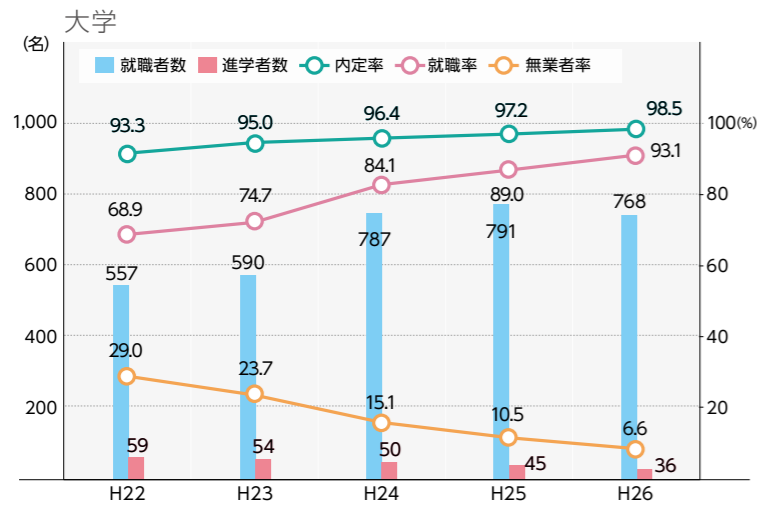
系統的なキャリア教育と体系的な就活支援プログラムによって学生の実力を高め、就職率は高位で安定しています。

就業力育成プログラムを正規教育課程に組み込み、初年次から段階的に「就業力」を育成しています。就職活動支援は、少人数指導、東京・大阪事務所の開設、企業ネットワーク形成、就活費用援助等の各方面から強力にサポートしています。

大学・短大ともに、進路決定状況は高位で安定

大学9学科・短大2学科で、それぞれに高い就職率等の数値目標を設定しています。各学科等の教員と担当指導員(各学科に1名以上配置)が協力して、学生一人ひとりと向き合って企業研究や就活指導を行いました。

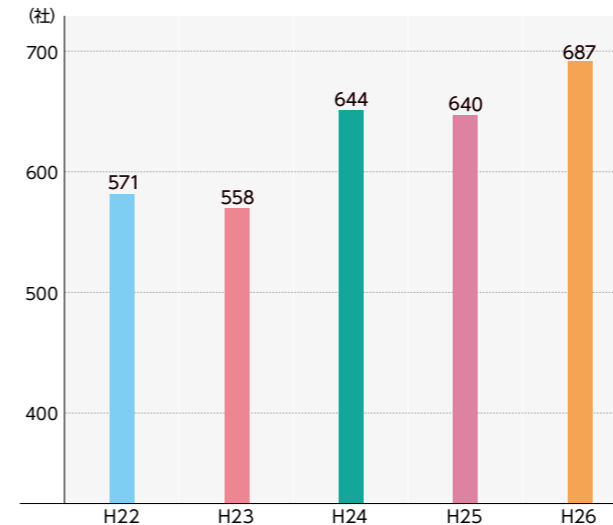
大学・短大進路決定状況推移グラフ



広範な企業ネットワークの形成、企業各位の強力サポート

東京事務所、大阪事務所及び本学キャリアサポートセンターの活動によって、東京・中京・大阪・九州・山口にわたる広範な企業ネットワークを形成しています。企業各位の強力サポートによって、学内で開催する合同企業説明会の参加企業は毎年増加しています。

学内合同企業説明会 参加企業数



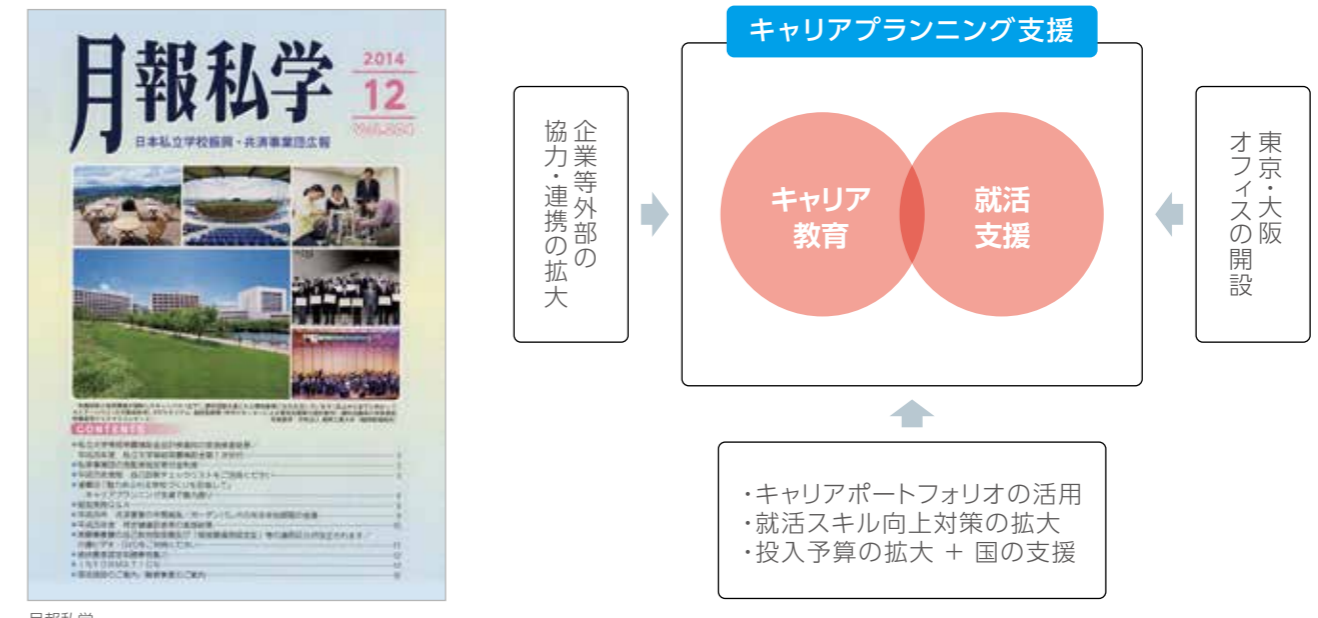
平成26年度 学内合同企業説明会の様子



約700社の企業各位のご協力を得て、学内合同企業説明会を実施

「キャリア教育と就活支援」の取組は好事例として全国で紹介

日本私立学校振興・共済事業団発行の「月報私学12月号」において、本学のキャリアプランニング支援の取組(キャリア教育、就活支援、就活学び直しプラスワンプロジェクト、進路保証プログラムなど)が、先進事例として全国で紹介されました。



▶ 朝日新聞出版大学ランキングでも、進路・キャリア教育部門で全国11位の高い評価

短期大学の進路(就職・4年制大学編入)状況は良好。入学志願者は増加し入学者の確保も安定しています。

学生一人ひとりに、教職員一人ひとりが、「親身になって」「親代わりに」「厳しく」関わり、確実に学力・意欲・社会性を向上させています。そのようなことが企業・地域等から評価されて、進路決定の良好さや入学志願者の増加に繋がっていると考えています。

進路保証プログラム(就職力強化)の取組が「就職決定」に大きく貢献

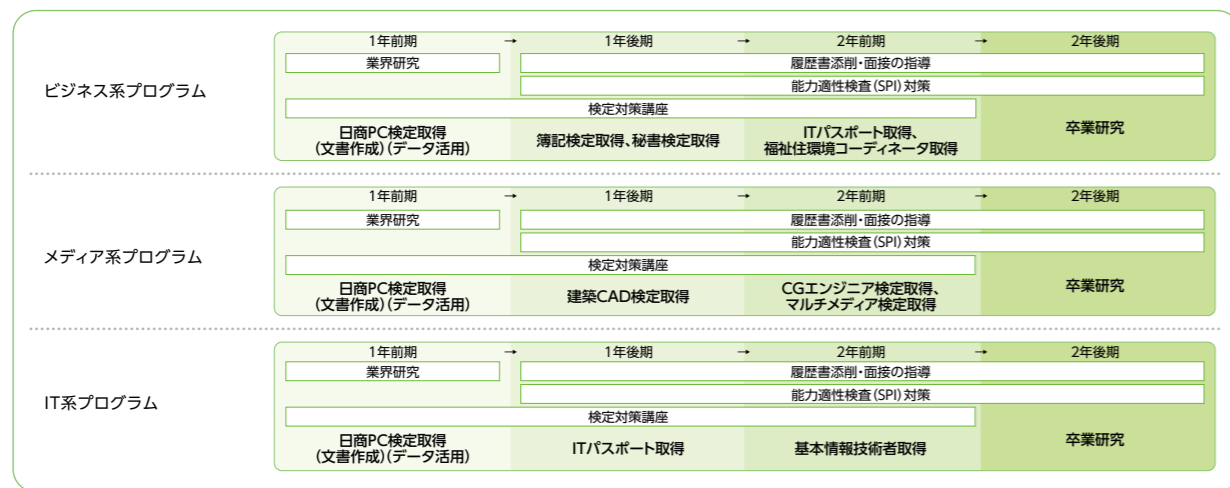
進路保証プログラムは、学生一人ひとりの学習・学生生活に深く関わり、確実に学力・意欲・社会性を向上させ、「目指す進路の実現」を目指してきました。就職支援に関しては、希望職種別特別支援、ゼミ単位の特別支援、就職に有用な資格取得支援などを行いました。

■ 過年度10年間の就職状況推移

	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	(名)
卒業生数	158	149	144	121	132	119	160	151	149	169	
就職希望者数	69	68	67	42	43	39	71	74	65	79	
就職者数	68	65	66	41	39	37	69	72	63	77	
進学者数	61	57	50	46	48	51	54	53	60	64	
進路決定者数	136	129	120	89	99	91	130	133	124	148	
就職対象者	97	92	94	75	84	68	106	98	89	105	
就職希望率	71.1%	73.9%	71.3%	56.0%	51.2%	57.4%	67.0%	75.5%	73.0%	75.2%	
就職率	98.6%	95.6%	98.5%	97.6%	90.7%	94.9%	97.2%	97.3%	96.9%	97.5%	

就職対象者: 卒業生数-進学者数等

■ 就職教育プログラム



▶ このプログラムは、日本私立学校振興・共済事業団支援事業に採択、中間評価は最高位「A」評価

進路保証プログラム(編入学強化)の取組が「4年制大学編入」に大きく貢献

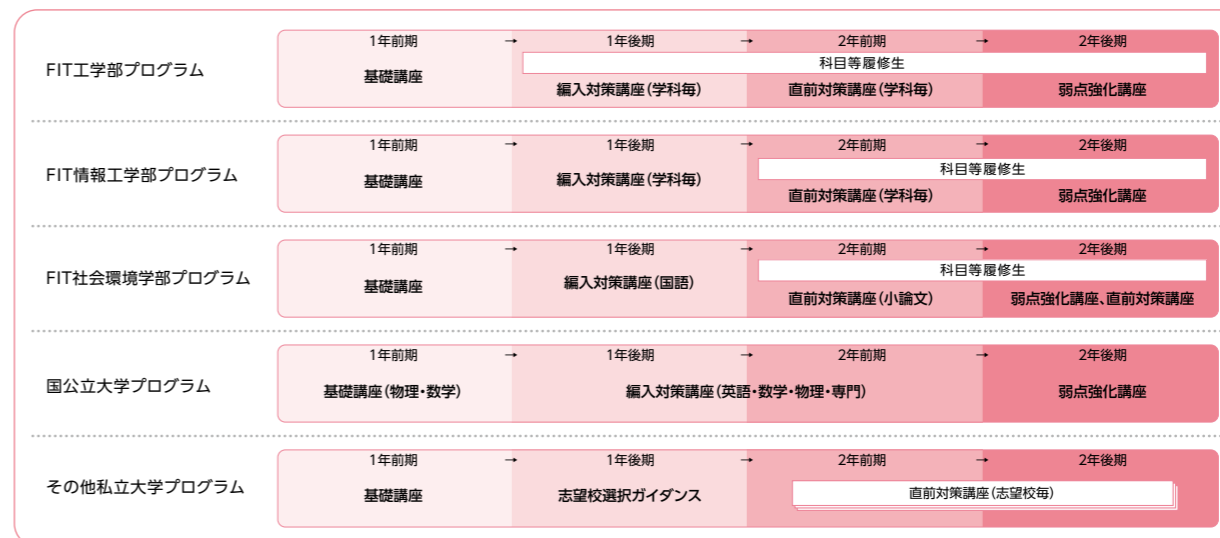
編入学支援の進路保証プログラムでは、大学編入学試験合格の対策講座として、英語、数学、物理、小論文について、早朝集中課外講座、個別添削指導、外部試験(TOEICなど)活用などを行っています。その成果は毎年向上しています。

■ 過年度10年間の編入学状況の推移

	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	(名)
進学者数	61	57	50	46	48	51	54	53	60	64	

▶ H27年度は64名希望者全員が編入学試験に合格
合格大学:九州工業大学3名、鹿児島大学2名、佐賀大学1名、琉球大学2名、名桜大学2名、札幌市立大学1名、福岡工業大学42名、他22名、延べ75名

■ 編入学教育プログラム



進路保証に向けた取組や就職・編入学実績の良好さが入学志願者増加の要因

入学者に対する志願動向の調査では、進路保証に向けた様々な取組に大きな期待が寄せられていることがわかります。今後も、「進路保証プログラム」は、就職・編入学実績の高位安定のために、企業・大学等のニーズの変化に対応し得るプログラムとして改善を継続していきます。

■ 過年度10年間の志願者推移

	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	(名)
志願者数	252	230	223	192	292	314	343	386	346	462	



▲平成26.9月 近郊大学編入説明会
今年度の参加大学は10校。編入学を希望している129名がガイダンスに参加しました。



▲平成26.11月 進路設計・座談会
内定を得た2年生が1年生に対し、自身の体験談をレポートしました。

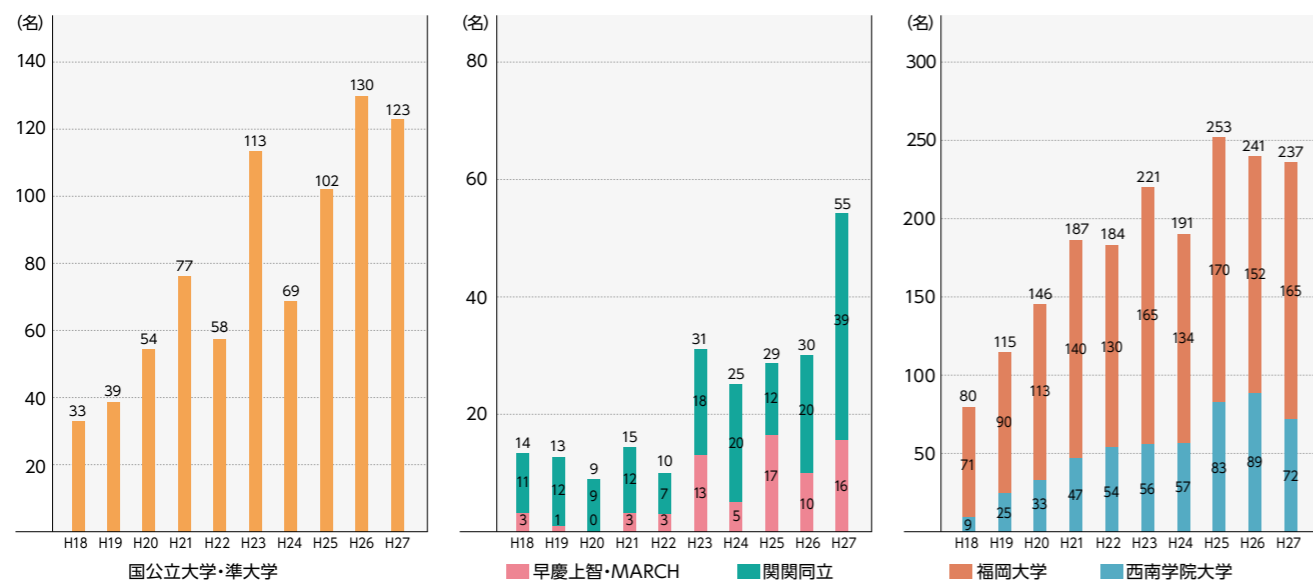
城東高校は、進学・就職・課外活動の実績が高く評価されて、入学志願倍率は2年連続で福岡県トップとなりました。

学校改革元年(平成12年)を起点に、学業～スポーツまで、多岐にわたり活動が活発化しています。国公立大、難関私大等の合格実績や就職実績、課外活動の競技成績等は大きく向上しました。新たなカリキュラム・コース編成で生徒の夢実現をサポートしています。

国公立大合格実績は改革目標(100名合格)を達成。就職率も100%を達成

進学対策は、難関大学特別学習会など、20数種の学習・教育方法の改善を試行しています。就職対策も「就職100%」を目標に様々な支援策を講じています。特に、資格取得支援の実績は、「第二種電気工事士合格率全国2位」をはじめに、たいへん良好でした。

■ 過年度10年間の合格者推移



■ 過年度10年間の就職状況推移

	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
就職対象者	115	95	95	116	78	77	73	69	50	72
就職希望者	115	95	95	116	78	77	73	69	50	72
就職希望率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
就職者	114	95	95	116	78	77	73	68	50	72
就職率	99.1%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	98.6%	100.0%	100.0%

就職対象者: 卒業者数-進学者数等

部活動も活発化。ダンス部は世界大会で優勝

部活動は人間性や社会性を育む重要な教育機会として指導に力を注いでいます。従って、学術・文化からスポーツにわたってたいへん活発です。今年度は、ダンス部、吹奏楽部、工業科ロボットプロジェクトが特に優秀な成績を修めました。



世界大会優勝ダンス部メンバー優勝トロフィー



Miss Dance Drill Team International USA 2015 サイン



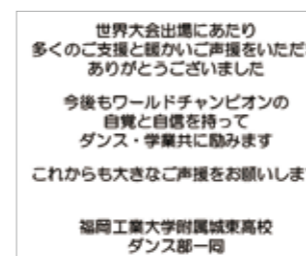
吹奏楽部 全日本吹奏楽コンクール演奏の様子



工業科ロボットプロジェクトメンバー



Miss Dance Drill Team International USA 2015 会場



卒業式ダンス披露時の感謝のメッセージ



吹奏楽部 全日本吹奏楽コンクール出場

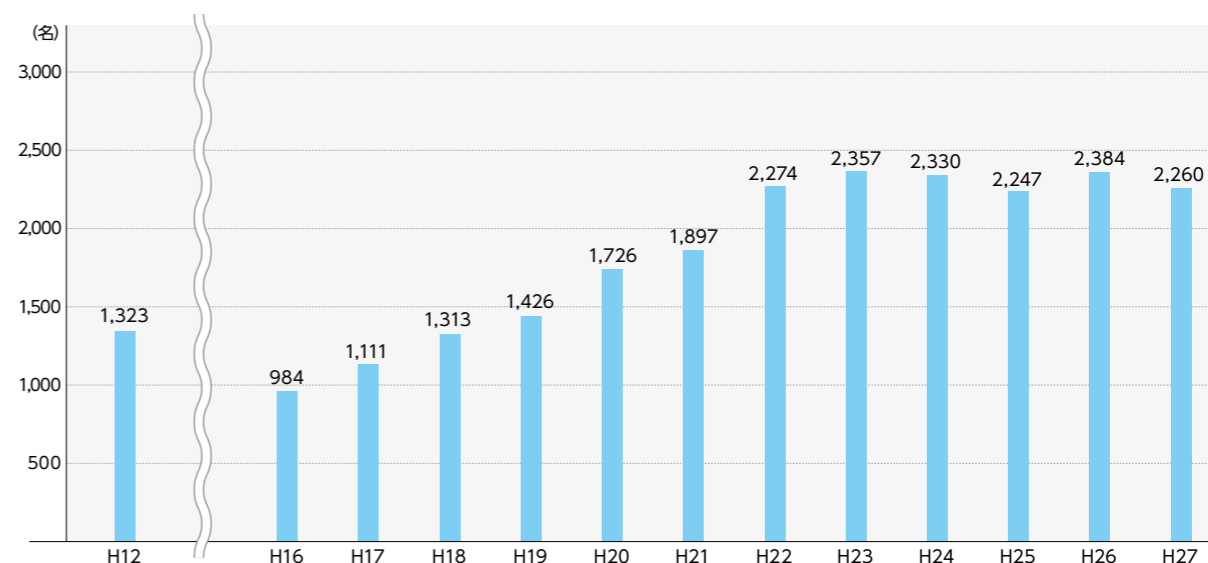


工業科ロボット相撲プロジェクト 全日本ロボット相撲全国大会出場

入学志願者は、県下トップクラスで推移

入学志願者は、改革元年(平成12年)以降右肩上がりの増加傾向です。平成22年度に2,000名を超え、以降、その高い水準を維持しています。平成26年度には2,384名に達し、福岡県トップとなりました。(平成27年度入試も福岡県トップの入学志願倍率)

■ 過年度の志願者推移



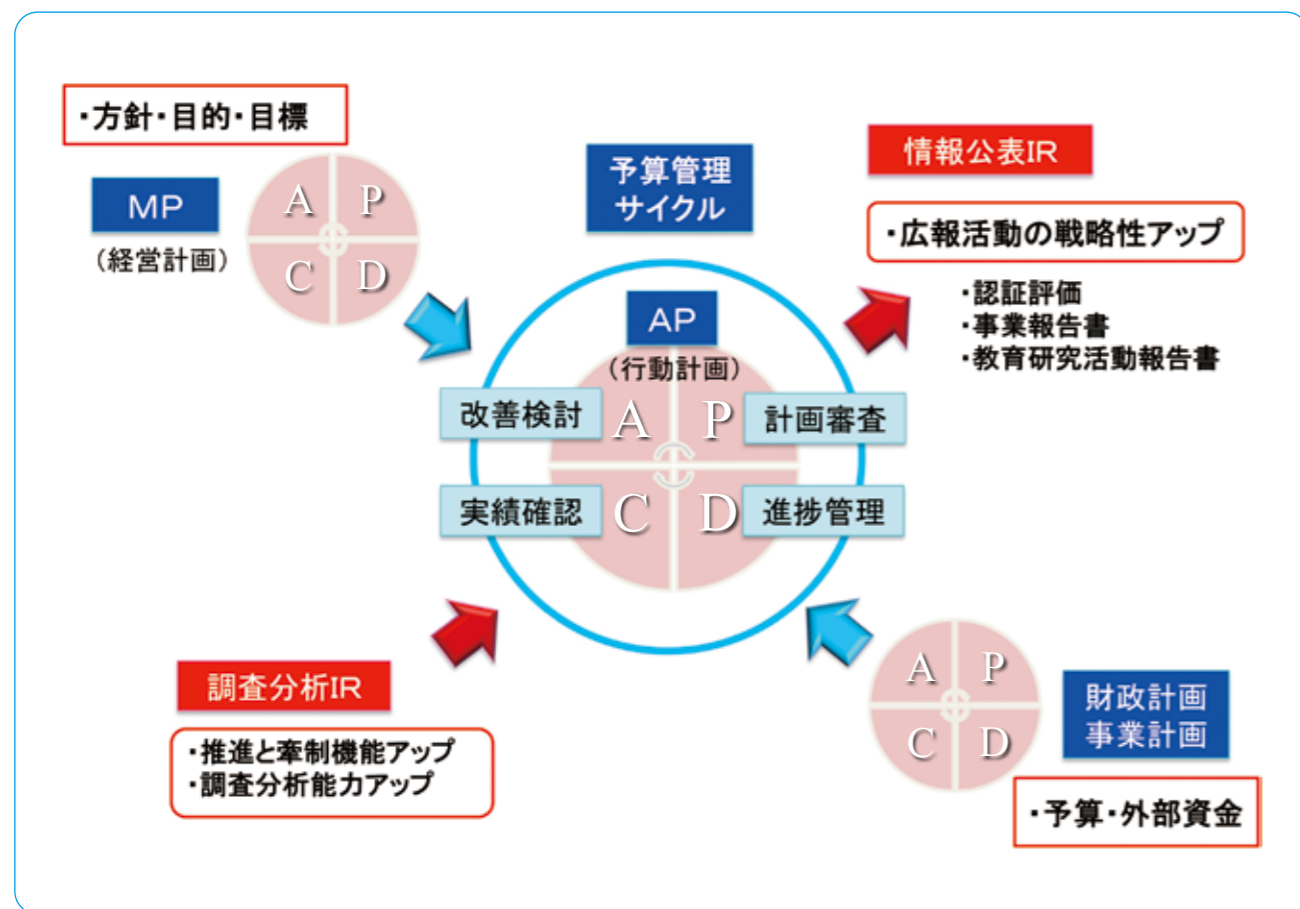
経営合理化で、「教育・研究活動への積極的財政支援」と「低学費」を両立させています。

経営・財政運営の基本方針は、「安定した経営・財政基盤のもとで、教育・研究活動へ積極的に資金投下する」ことです。PDCAによる経営管理の仕組みによって、経営の合理化・安定化を追求し、低学費でありながら活発な教育・研究活動ができています。

PDCAによる経営管理システムで学校運営を合理化

経営計画や教育・研究計画の実現性や費用対効果を向上させるために、その活動をPDCAサイクル(Plan: 具体的な計画、Do: 確実な実行、Check: 入念な実績点検・評価、Action: 評価に基づく改善行動)を用いて確実なものにして、継続的な進展を目指しています。

PDCAによる経営管理システム

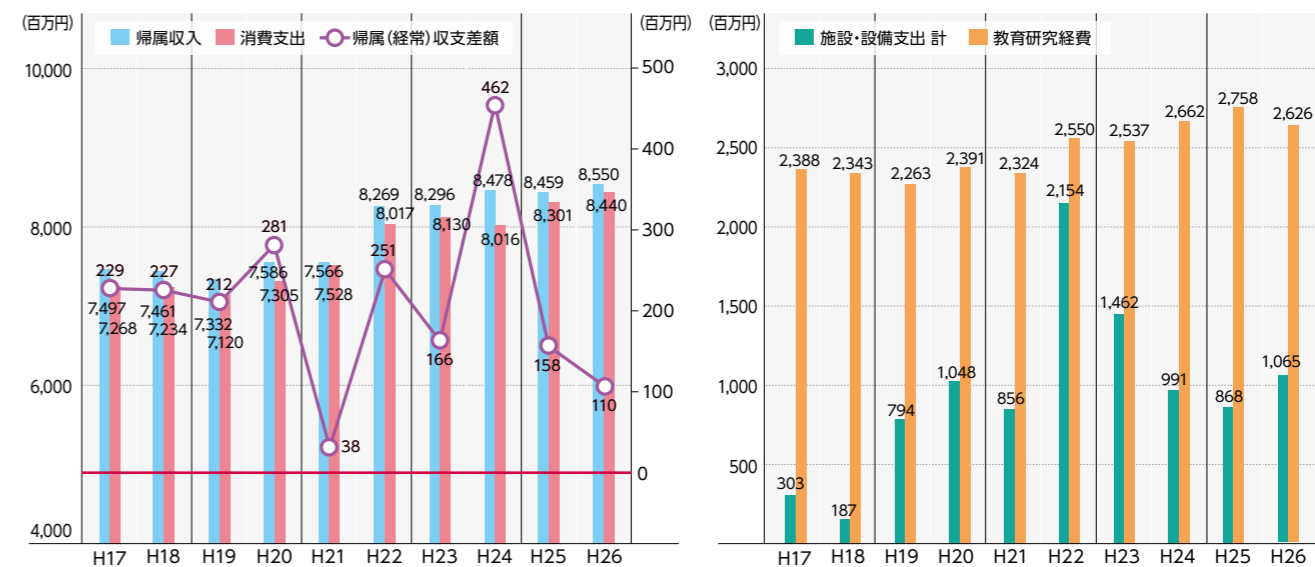


▶ MP: 経営計画、AP: 1年間の教育・研究等の計画、IR: 調査分析と情報公表

10年連続の財政安定と教育・研究への積極的投資

帰属収支差額プラス(収入-支出=黒字)の目標は低めに設定して、ゆとりのある投資資金を確保し、それを教育・研究とそれらの環境整備に充当しています。「低学費でありながら教育・研究は活発であること」が財政運営の基本方針です。

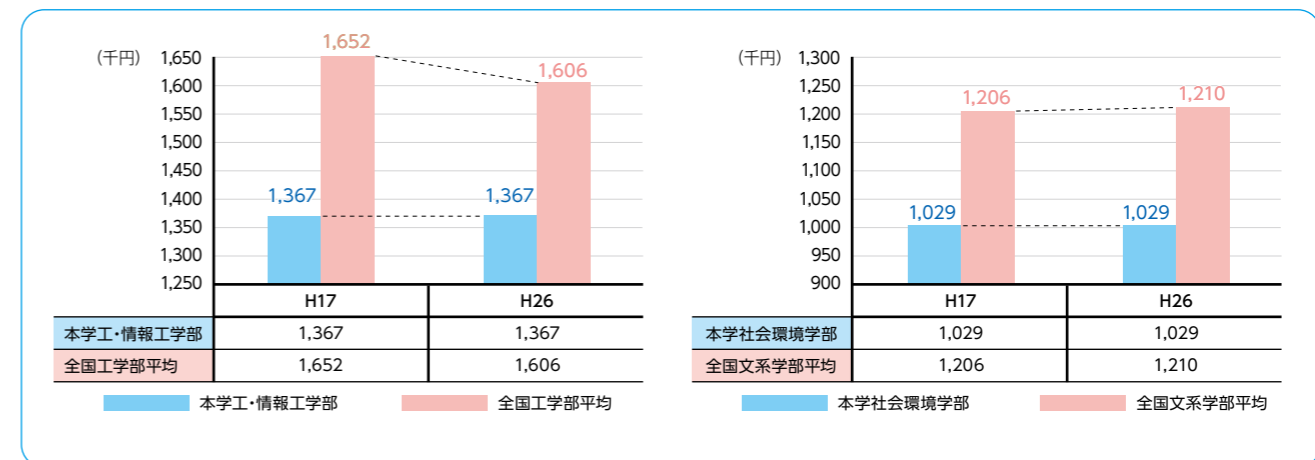
帰属収支差額・施設設備支出・教育研究経費推移



全国屈指の低学費で経済的負担を軽減

一般的な大学の学費と比べて低学費になっています(大学院・短大・高校の学費も相対的にみて低学費です)。経済的な理由で退学や休学となる学生・生徒をなくしたいとの考えによります。近年では、経済的理由で退学となる学生は、その全国の平均的水準と比べてとても少なくなりました。

大学・学部の学費相对比较



▶ 経済的理由で休・退学となる学生も全国平均を大きく下回っています。(休・退学者比率は約1/3)

教育・研究、経営・財務の改革継続とその成果が、全国の大学の先進事例として高い評価を受けています。

経営・財務の外部評価（格付審査）について、「受審準備や評価結果が、本学園の経営状況の調査・分析、点検・評価の一助として、極めて有効」と判断しています。従い、法定の自己点検評価、経営計画や財政計画の履行点検、内部監査的IR等に活用しています。

経営手法やその結果（経営指標など）に対する評価はさらに向上

教育・研究、経営・財務に関する第三者評価の一環として、株式会社格付投資情報センター（R&I）と株式会社日本格付研究所（JCR）が実施する格付審査を受審し、諸活動のいっそうの改革・改善に努めています。

■学校法人福岡工業大学が2つの格付会社から格付を取得しました。



大学情報誌などで高評価・全国で紹介

朝日新聞社「大学ランキング2016」の「キャリア・教育」部門で、全国11位にランクされました。この他にも、面倒見の良さ、改革力、地域貢献度、低学費の度合い、文科省支援事業採択実績等において、上位にランクされました。

大学探しランキングブック 2015 大学通信

面倒見が良い大学 九州2位 (九州私学1位)	就職に力を入れている大学 九州私学1位 (全国24位)	改革力が高い大学 九州私学2位
-------------------------------------	------------------------------------------	---------------------------

日経グローバル (2014年12月1日発行)

小規模だが評価できる大学 九州私学2位 (全国31位)	地域貢献度ランキング 九州私学1位 (全国53位)	サンデー毎日 (2015年1月4・11日新春合併号) 文部科学省大学支援事業採択ランキング 全国私学5位 (九州1位)
------------------------------------------	----------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------

大学ランキング 2016 朝日新聞社

事務局長からの評価(キャリア教育部門) 全国11位 (九州1位)	事務局長からの評価(総合) 九州1位 (全国24位)
-----------------------------------------------	-----------------------------------------

大学研究誌等で先進事例として数多く紹介

経営管理の仕組みやその成果について、日本私立学校振興・共済事業団や日本私立大学協会の調査・研究で高い評価を受けました。この他にも、予算管理、情報公表、職能開発等について、幾度となく調査・研究の対象となり、好事例として全国紹介されました。

<p>「大学経営強化の事例集」 文部科学省委託研究において、本学の経営計画およびその実行計画の管理運営システムについて、数少ない好事例として紹介されました。 (2007.3)</p>	<p>「私学経営」 私学経営研究会セミナー(東京・大阪の二地区で開催)における常務理事の経営管理に関する講演の抄録が掲載されました。 (2008.3)</p>
<p>「学校法人」 経費効率化を促し教育効果を向上させる予算制度が構築されているとして、高く評価され紹介されました。(日本私立学校振興・共済事業団レポート) (2008.7)</p>	<p>「大学外組織評価研究会」 大学評価・学位授与機構の研究で、本学の経営管理システム、特に様々な取り組みの評価活動について、他大学に重要な示唆を与えるとして評価されました。 (2009.3)</p>
<p>「カレッジマネジメント」 予算管理と結びつけて経営計画・行動計画を実質化する取り組みについて、「お手本のよき事例」として紹介されました。 (2009.5)</p>	<p>「大学評価・学位研究」 本学のPDCAの一環として行う事業評価・改善の手法が、非営利組織の経営論の権威であるピーター・F・ドラッカーの経営理論との対比によって評価されました。 (2010.3)</p>
<p>「カレッジマネジメント」 次世代リーダーを育成するために実施している、アメリカ研修プログラム(FASTプログラム)が他大学にない独創性と密度の濃さがあると評価され、紹介されました。 (2011.1)</p>	<p>「大学経営の評価システム」 本学のPDCAを基盤とした経営システムが、評価が機能する体制の好事例として取り上げられました。 (2012.3)</p>
<p>「教学IRとエンrollment・マネジメントの実践」 本学の中期経営計画に基づいた経営管理システムが、実行できる中長期経営計画の作り方の好事例として、常務理事、事務局長のインタビューと併せて紹介されました。 (2012.3)</p>	<p>「中長期経営システムの確立、強化に向けて」 実効性のある中長期経営システムの構築に関連する事例調査の対象校の一つとして選定され、本学の中期経営計画に基づいた運営の特長が紹介されました。 (2013.2)</p>
<p>「大学マネジメント改革」 中堅職員対象の渡米研修による職員の企画・開発力養成に向けた取組が、先駆的なマネジメントシステムを担う、職員の能力開発の好事例として取り上げられました。 (2014.3)</p>	<p>「私学経営」 経営管理システムに内包するSD・OJT機能について、全国の大学関係者の前で講演した内容が、私学経営研究会の会誌に掲載されました。 (2014.5)</p>
<p>「IDE 現代の高等教育」 本学の中期職員の渡米研修が、戦略経営人材の育成の好事例として紹介されました。 (2015.4)</p>	<p>「Between」 対話し、議論する力を独自の成果指標で育成・評価する本学のアクティブラーニングが紹介されました。 (2015.4)</p>

「科学技術創造立国」に貢献し得る「九州No. 1の教育拠点」の形成を目指しています。

大学・短大・高校の3校を設置しています。活動領域は情報・環境・モノづくりの分野です。これらの分野で活躍する人材育成のための、組織・体制(学部・学科・研究施設など)を整えています。短大・高校は「進路保証」を目標に掲げ、サポート体制を充実させています。

大学・短大・高校の3校を設置

3設置校が三位一体となって、我が国の「科学技術創造立国」や「地元九州・福岡の発展」に貢献することを目指しています。学生・生徒数は学園全体で約7,000名が在籍。日々、学術研究に勤しんでいます。



工業化、高度情報化、さらに環境技術の進展に合わせて成長・発展

大学は工学部を起点に、高度情報化社会に対応して情報工学部を、工業技術の環境調和に向けて社会環境学部をそれぞれ開設し、平成25年度に開学50周年を迎えました。国や社会のニーズに応え、一方でそれらに支えられて成長・発展しています。

■沿革

電気通信技術の普及・振興に向けて—高校、短大、大学3校を開設—

昭和29年(1954年) 福岡高等無線電信学校を創設
昭和33年(1958年) 学校法人福岡電波学園福岡電波高等学校を開設
昭和35年(1960年) 福岡電子工業短期大学(電子工学科)を開設
昭和38年(1963年) 福岡電波学園電子工業大学工学部(2学科・電子工学科、電子材料工学科)を開設
建設中の校舎(昭和37年頃)▶

電子技術立国による高度経済成長に向けて—工学系総合大学へ—

昭和41年(1966年) 大学の名称を福岡工業大学に変更。学科増設で工学部6学科(電子、電子材料、電子機械、管理、電気、通信)体制に
昭和58年(1983年) エレクトロニクス研究所開設
校舎の様子(昭和41年頃)▶

高度情報化・工業技術専門化に向けて—情報科学分野の拡充と大学院開設による教育・研究の高度化—

平成 5年(1993年) 大学院工学研究科修士課程開設
平成 9年(1997年) 大学に情報工学部開設(4学科)
平成10年(1998年) 情報科学研究科開設
平成11年(1999年) 大学院工学研究科博士後期課程開設
新分野拡充のために新校舎建築(平成5年頃)▶

工業技術発展と環境の調和した持続可能社会に向けて—文系環境学部の新設で文理融合型大学へ—

平成13年(2001年) 大学に社会環境学部(文系)開設
高校の名称を福岡工業大学附属城東高等学校に変更
平成17年(2005年) 短大の学科名を情報メディア学科とビジネス情報学科に変更
環境科学研究科開設
平成19年(2007年) 大学院社会環境学研究科修士課程開設
環境配慮と先端設備を同居した新型キャンパスへ転換(平成17年頃)▶

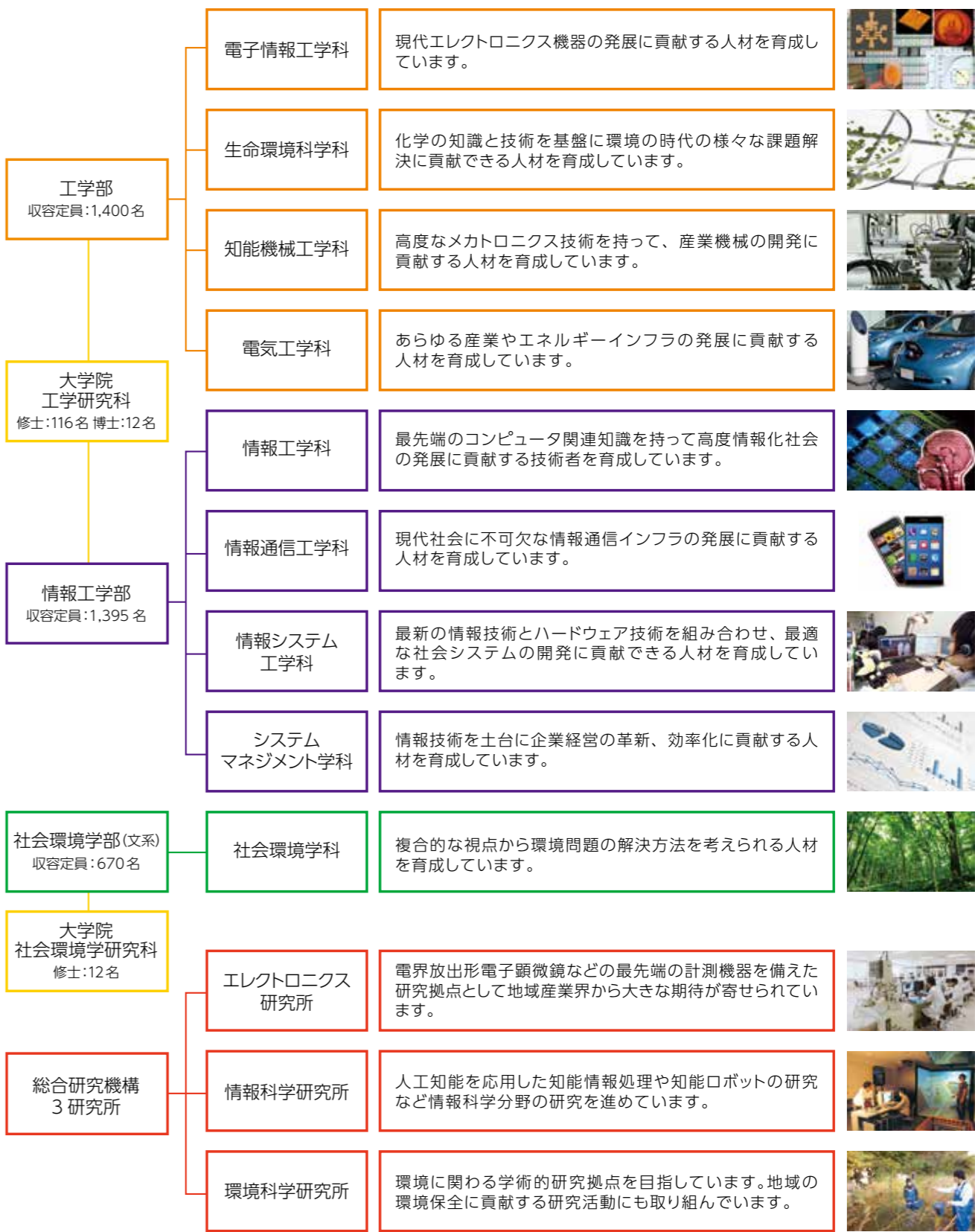
開学50周年・九州No.1の教育拠点に向けて—大学改革のニーズに対応した教育・研究環境の構築—

平成25年(2013年) 国際戦略室を設置<国のグローバル戦略への適応目的>
平成26年(2014年) 先端技術地域連携センターを設置<研究成果の地域社会への還元を目的>
大学・地域連携推進室を設置<外部連携による地域発展への貢献を目的>
平成27年(2015年) 大学の入学定員を830名から915名(工学部380名・情報工学部375名・社会環境学部160名)に拡大
教養力育成センターを設置<教養教育の見直しとその教育方法等改善を目的>
環境教育・研究のフィールドとしておとめが池を整備(平成27年4月)▶

教育・研究の活動領域は「情報・環境・モノづくり」

「情報・環境・モノづくり」の活動領域に対応して、大学は、工学部、情報工学部、社会環境学部の3学部(9学科)、大学院は工学研究科、社会環境学研究科(2研究科)を設置しています。

■大学(学部・学科)・大学院・3研究所概要 ※収容定員は平成27年度

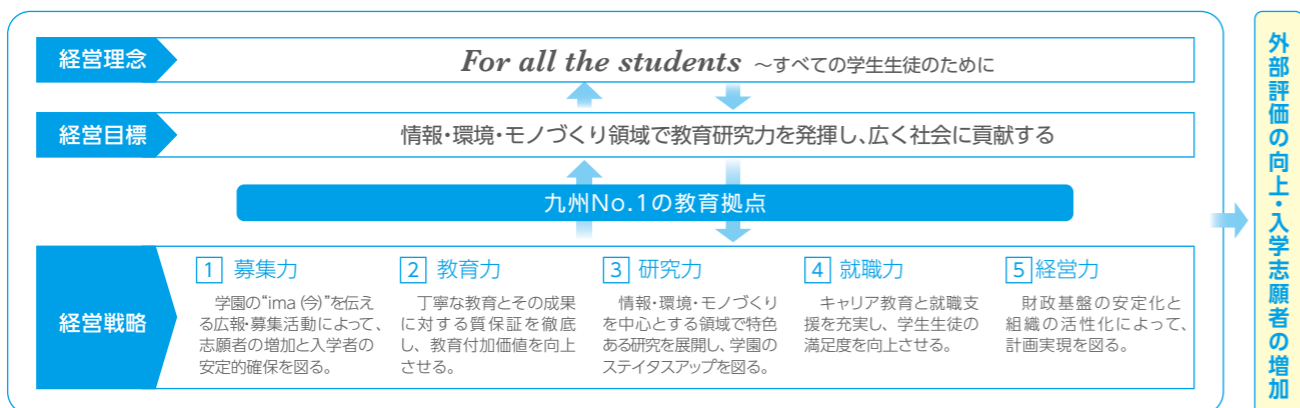


経営理念として *For all the students* を掲げ、その具現化のためにマスタープランを策定し、これに基づいて学校改革を続けています。

経営理念は、全ての教職員の諸活動における根本的考え方です。また、全ての教職員が学生・生徒のためになることであれば「Just Do It! (即実行)」が基本です。これらの精神を掲げ、公教育を担う学校法人としての使命感をもって、教育・研究にあたっています。

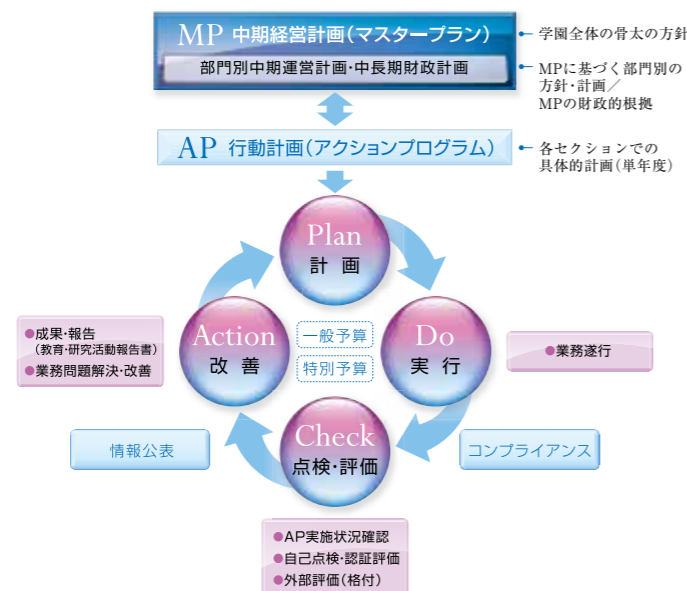
マスタープラン(中期経営計画)の経営戦略(総合的目標)

マスタープランでは、学園全体(大学・短大・高校)のビジョン・目標(どこに向かおうとしているか)が明確に示されています。それらの具体化策(3設置校の諸活動の改革・改善)の成果は、「外部評価の向上・入学志願者の増加として表れる」と考えています。



毎年500件のアクションプログラム(行動計画)を実施

マスタープランの行動計画として、毎年500件余の教育・研究等の改革・改善の諸活動を実施しています。これらの取組は、予算管理と連関してPDCAサイクルによって管理されることから、その計画実現性はとて高くなっています。

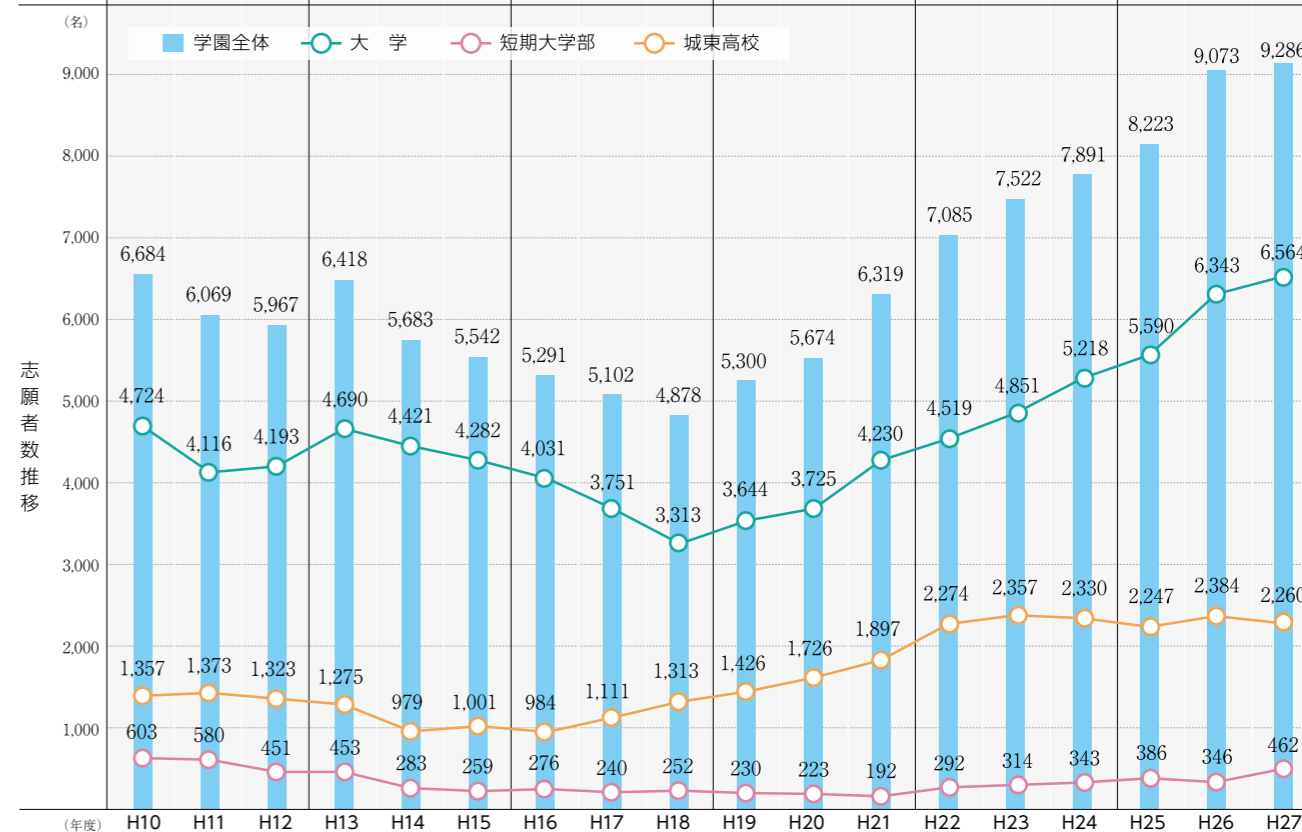


マスタープランの成果として入学志願者は増加

大学は、9年連続で入学志願者が増加しています。短大も増加傾向(平成27年度は過年度10カ年で最高)です。高校は平成16年度以降7カ年連続で入学志願者が増加し、今日「県下でトップクラス」を維持しています。

■ マスタープランの成果

	改革期			成長期			変革期											
	第1次	第2次	第3次	第4次	第5次	第6次												
	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
主な取り組み	学術支援機構設置(大学) 大学院博士後期課程開設(大学院) 就職ネットワークの構築(3校共通) 「変革宣言」に基づく教育改革スタート(高校)	社会環境学部開設(大学) ISO14001認証取得(社会環境学部(大学)) 福岡工業大学短期大学部に校名変更(短大) 福岡工業大学附属城東高校に校名変更(高校)	大学院情報通信工学専攻開設(大学院) 生命環境科学科開設(大学) 学科名変更、カリキュラム改訂(短大) ISO14001認証取得(高校)	大学院社会環境学専攻開設(大学院) フレッシュマンスクール設置(大学) 進路保証プログラムの設定(短大) 短大との単位互換制度導入(高校)	FD推進機構による教育改革の推進(大学) キャリア関連科目の必修化(大学) 小型宇宙衛星開発【JAXA採択】(大学) 学校教育評議会による外部評価の充実(高校)	第6次マスタープランによる一層の質向上												
校舎等の竣工	2月 α棟竣工(モノづくりセンター、キャリアサポートセンターなど) FITアリーナ竣工 10月	2月 A棟竣工(工学部、社会環境学部など) 担心寮(学生寮)竣工 10月	1月 B棟竣工(情報工学部、短期大学部、情報処理センター、学生サービスセンターなど) 7月 D棟竣工(工学部、情報工学部など)	塩浜総合グラウンド竣工(FITスタジアムなど) 3月 3月 高校校舎リニューアル 福工大前駅竣工	3月 FITホール竣工 8月 FITセミナーハウス竣工	第III期施設・設備整備計画による教育・研究施設の充実												

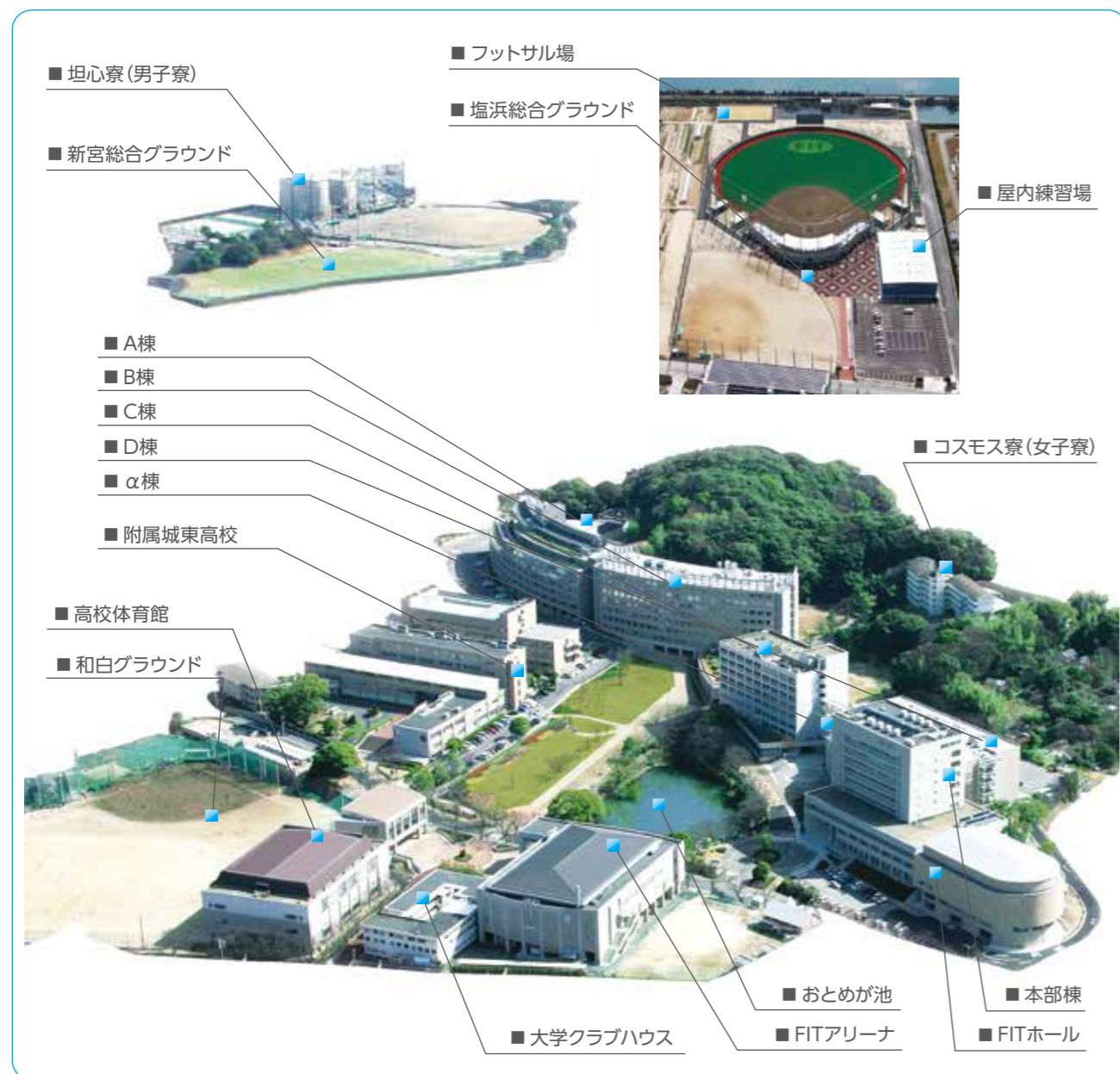


キャンパス整備では、教育・研究機能の高度化、キャンパスライフの利便・快適性の向上を追求しています。

平成9年から計画・段階的にキャンパスを整備してきました。α棟を起点に、A～D棟の教育4棟、FITアリーナ・ホール・スタジアム・セミナーハウスまで、教育・研究機能高度化、課外教育活発化、学生のキャンパスライフに関するニーズ多様化等に適応させました。

先進技術と自然環境が調和したキャンパス

先進工業技術・ICT 技術・自然環境が調和したキャンパスを整備しています。おとめが池を中心に桜やケヤキの並木、芝生広場、常緑樹林帯を配置し、学びの場として良好な環境となっています。



人間教育の場として課外活動施設も様々に整備

文化・スポーツ・地域交流の場として、FITアリーナ(コンサート・スポーツ両方に対応)、FITホール、FITスタジアム(野球他多用途に対応)、FITセミナーハウス(合宿研修所(大分県由布市))を設置しています。



FITアリーナ

FITホール

FITスタジアム

FITセミナーハウス
(大分県由布市)

主体的学習サポート、研究高度化などに対応しキャンパス全域を革新

国・社会から求められる大学改革ニーズに積極的に対応するために、キャンパス全域を再構築します。学生の主体的学習促進を中核にした教育の質的転換、産業界等との連携、地域発展への貢献、並びにグローバル化を促進し、九州No.1の教育拠点を目指します。

<キャンパス整備の主要な目的>

- 1 アクティブラーニングの拡大
- 2 情報処理・情報編集技術の高度化
- 3 ラーニング commons の学習機能向上
- 4 キャンパスライフの快適性向上
- 5 研究高度化・実用化の加速
- 6 キャリア教育・グローバル化教育の高度化
- 7 地域社会・産業界と連携強化

九州No.1の教育拠点化



新棟完成イメージ 平成28年度竣工予定

全学的に新たな教育内容・方法を開発・試行し、丁寧な教育に向けて総合的に取り組んでいます。

教育内容・方法の改善・向上に関する企画、開発、実施及び支援を行うためにFD 推進機構を設置しています。ここでは、FD（教授・教育方法開発）に関する取組の立案・実施（リメディアル教育、入学前教育など）や学部等におけるFD の支援を行っています。

全学をあげて、体系・系統的に教育内容・方法を改善

教育の質向上を進めるための基盤的条件（FD 推進委員会やその学部の設置など）を整備し、全学的または各学部で「学生の能動的な学習」を促すための議論を活発・入念に行き、学部の特徴を活かした教育改善活動を継続しています。

	工学部	情報工学部	社会環境学部
全学FD	・ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー改訂 ・アクティブラーニング展開 ・授業アンケートの高度活用 ・インターンシップ高度化		
学部別FD	・講義PDCA ・学部と大学院の連携教育 ・FD研修会	・教育改善PDCA ・個別相談コーナー開設 ・他学科科目履修制度創設 ・FD研修会	・先進的教育事例研修 ・FD研修会
入学前教育	・e-Learning方式による数学基礎力強化（推薦入試合格者対象）		テキスト課題による数学基礎力・作文力強化（推薦入試合格者対象）
リメディアル教育	・導入科目による基礎学力の底上げ ・「フレッシュマンスクール」による数学基礎力向上		・「フレッシュマンスクール」による作文力向上
情報教育	情報系基礎科目による情報スキル養成		
英語教育	習熟度別クラス編成による効果的な教育の実施		
創成型教育	課題解決型授業による創造性を磨く授業の展開		
少人数ゼミ	実験科目・ゼミナールなどにおける自主的学修の促進		
表彰制度	成績優秀者、資格取得者の表彰		資格取得者の表彰



フレッシュマンスクールの様子



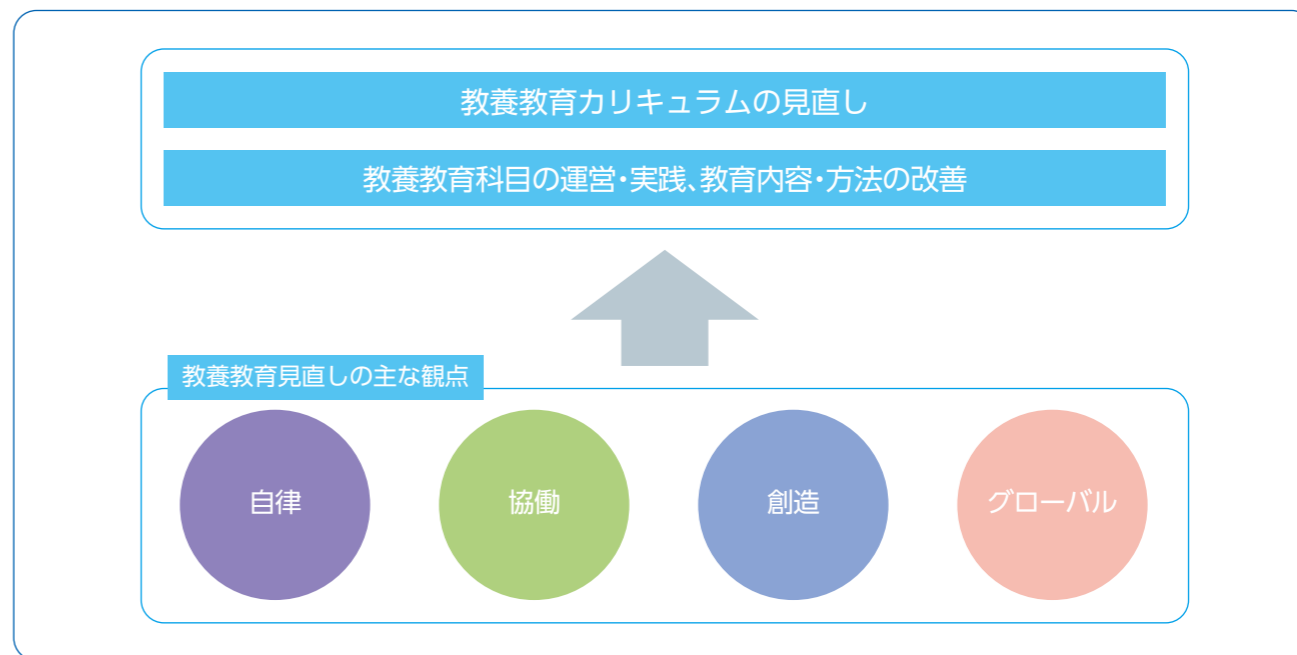
アクティブラーニングの様子



学部表彰（平成26年度）の様子

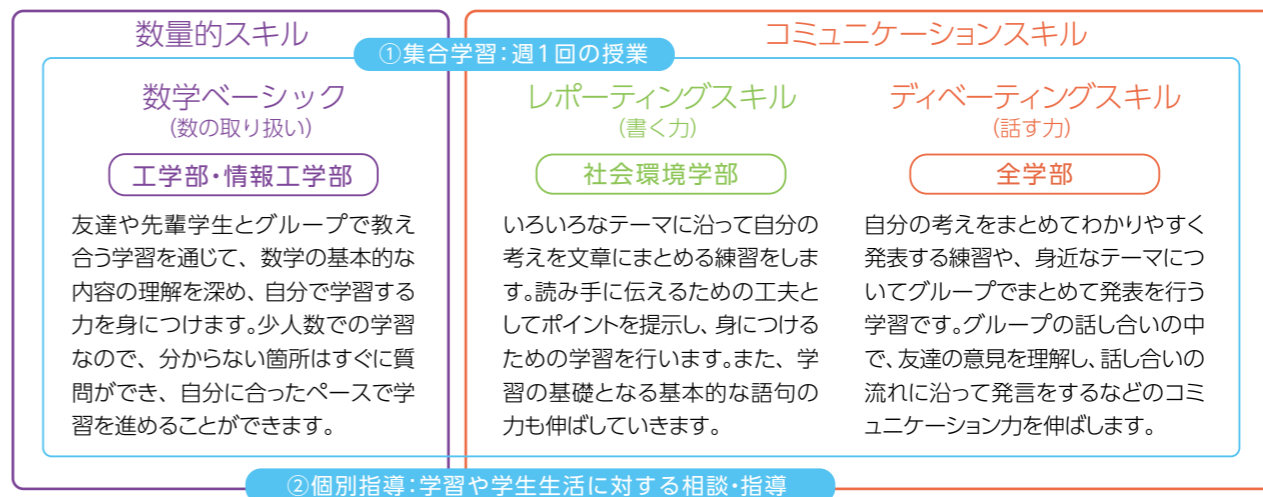
教養力育成センターを開設（平成27年4月）

教養教育の目的を「社会を生き抜く力を備え、広い視野で主体的に前進できる人材育成」と確認し、全学の教養教育カリキュラムの編成、運営並びに教育実践の改善に取り組むため、教養力育成センターを開設しました。



フレッシュマンスクールで「大学で学ぶために必要な力」を育成

新入生が学生生活を始める段階でのサポートとして、基礎学力養成のための「集合学習」と学習相談や悩みに対応する「個別指導」を行っています。対象者に「数学ベーシック」、「レポートニングスキル」「ディベートニングスキル」の課外授業を開講しています。



▶ 支援対象となった学生は「数学ベーシック」、「レポートニングスキル」を週一回の課外授業で学びます。「ディベートニングスキル」は希望者を対象に開講しています。

国・地域社会・産業界の要請に対して、多くの研究者が高い研究意欲で応えています。

総合研究機構や大学院研究科では、研究活動を通じた地域社会・産業界への貢献や研究成果の教育活動へのフィードバックの重要性から、積極的に研究事業を支援しています。企業との共同研究や受託研究、それらの実用化による社会貢献が拡大・進展しています。

右肩上がりの外部研究費+学内研究費で研究活動は活性化

厳格な審査制度のもとで、有望な研究計画に対して研究費の支援を行っています。若手教員、新任教員スタートアップ、学際連携、大型プロジェクト等、重層的な研究予算を設けて、研究者の研究意欲に応えています。

■平成26年度 若手教員研究奨励支援(研究期間:1年) 6件

	教員名	所属	研究課題名
1	福本 誠	情報工学科	ユーザの感性に合う香りを探索する技術の実用化に向けた改善
2	家形 諭	電子情報工学科	金属人工格子を用いたスピントルクオシレータの高出力化
3	松藤 賢二郎	社会環境学科	DPCデータに基づく医療機関の戦略的経営に関する考察
4	加藤 友規	知能機械工学科	気液相変化を用いた次世代人工筋アクチュエータの開発
5	竹之内 宏	システムマネジメント学科	対話型進化計算を用いた投票型デザインシステム
6	佐竹 純二	情報工学科	環境センサと移動ロボットの連携による見守りシステムの開発

■平成26年度 新任教員研究準備支援(研究期間:1年) 4件

	教員名	所属	研究課題名
1	中嶋 徳正	情報通信工学科	アンテナ近傍電磁界を活用したエナジー・ハーベスティングに関する研究
2	中村 龍史	情報通信工学科	高強度場と物質との相互作用の解明と量子ビーム発生
3	下戸 健	情報システム工学科	臨床材料用力学的評価シミュレータの開発
4	北崎 訓	電気工学科	プラズマ照射が未分化細胞に及ぼす影響の解明

■平成26年度 3研究所公募研究費 27件

エレクトロニクス研究所公募研究:近木祐一郎他13事業、情報科学研究所:下戸健他6事業、環境科学研究所:森山聡之他5事業

海外大学との国際的な教育・研究連携

英国ノッティンガム大学、米国オレゴン州立大学、中国南京理工大学、タイ国キングモンクット工科大学等との間で連携して教育・研究を行っています。当年度は、英語による集中講義、研究発表セミナー、学生の国際学会発表、教員相互の研究交流などが活発化しました。

■オレゴン州立大学との教育・研究連携

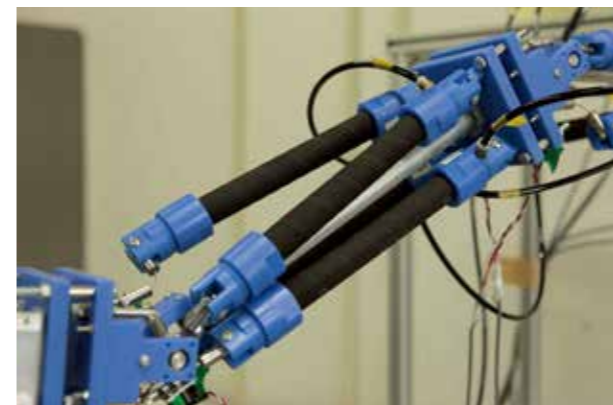
講義テーマの名称	招聘教授の氏名(職名)	講義内容	受講者数
磁性の基礎	パラビ・ダハージャット先生 (オレゴン州立大学工学部准教授)	ビッグデータの時代におけるエネルギーの散逸を極小化する磁性(スピン流)活用技術の基礎について講義	21名
スピン・ダイナミクスとトランスファー	アルブレヒト・ジャンダー先生 (オレゴン州立大学工学部准教授)	自動車への給電や廃熱発電など、磁性(スピン流)活用技術を用いた応用技術について講義	23名

■タイ国キングモンクット工科大学との教育・研究連携の様子



産業界との研究連携で研究高度化。研究成果は拡大

企業等外部との共同研究や受託研究では、研究成果の実用化や特許化が進んでいます。最近では、研究成果として、ダイヤモンド切削工具加工、三次元計測、自然エネルギー電力変換等の産業復興や防災・減災、社会の安全・安心に繋がる技術が創出されています。



災害・医療現場で人工筋肉を動かし活躍する遠隔操縦ロボットアーム



レーザーを用いた超精密加工技術を開発する次世代マイクロ/ナノ金型開発センター

キャリア教育の実践と深化に取り組み、多彩なキャリア支援策を実施しました。

初年次から「就業力育成プログラム」を正課の中に体系化して組み込み、学士課程を通じて就業力を育成しています。さらに、産業界や他大学と連携・協力して、いっそうのキャリア教育・サポートの充実に努めています。

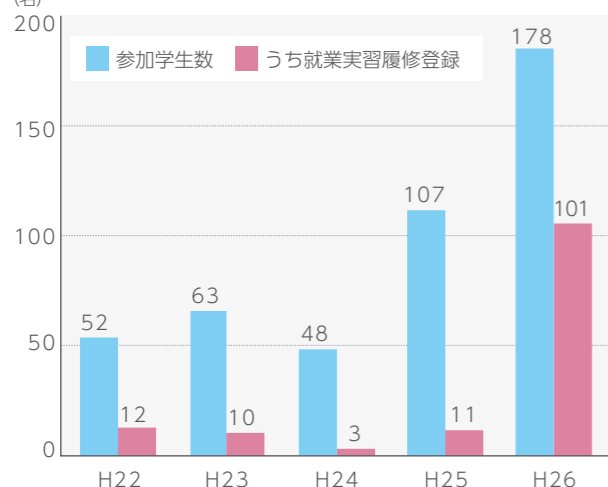
就業力育成プログラムは進化し、インターンシップ(就業体験)参加者は飛躍的に増加

本学では、実社会における就業力の構成要素を「志向する力」「共働する力」「解決する力」「実践する力」の4つに定義しています。それぞれを新たな教育システムに年次配当・体系化して組み込み、段階的に就業力の育成を図っています。

■就業力育成科目モデルプラン

	1年次		2年次		3年次		4年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
志向する力	キャリア形成							
共働する力	日本語表現	コミュニケーション基礎						
解決する力			技術者論理					
実践する力				就業実習				
					特定専門科目			

■インターンシップ参加者

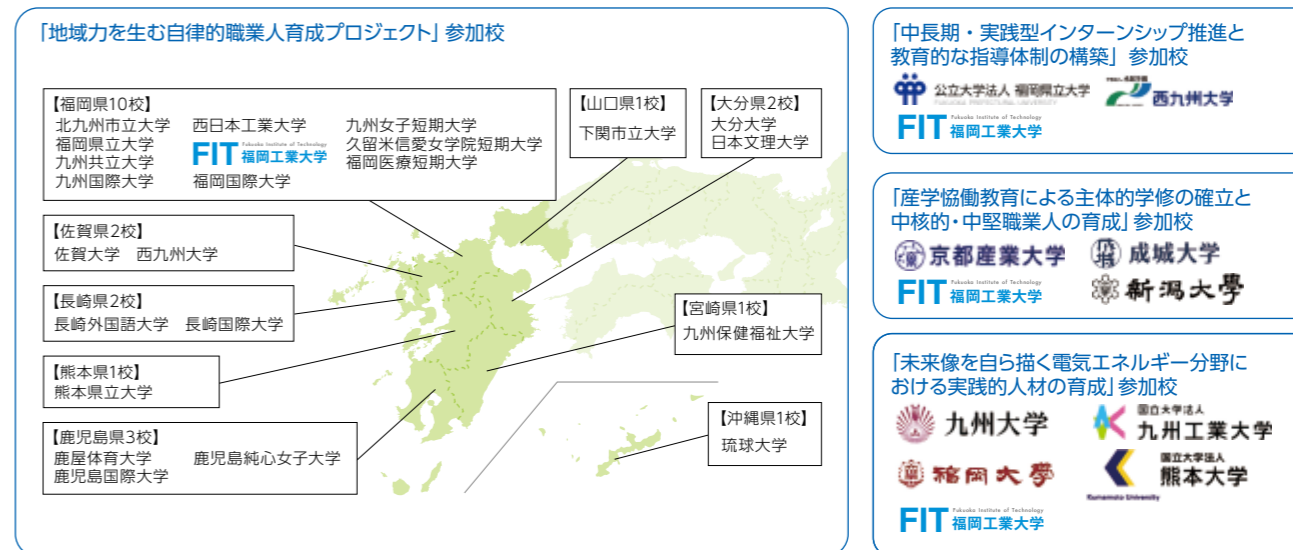


インターンシップ終盤での、研修発表の様子

産業界・他大学と連携・協力してキャリア教育、キャリアサポートを開発・実施

九州・沖縄・山口23大学、福岡・佐賀3大学、九州5大学等で共同教育等プロジェクトを形成し、教育プログラムを開発・実施しています。いずれも、文部科学省の「大学改革推進等補助金(大学改革推進事業)」に選定され、相応の評価を得ています。

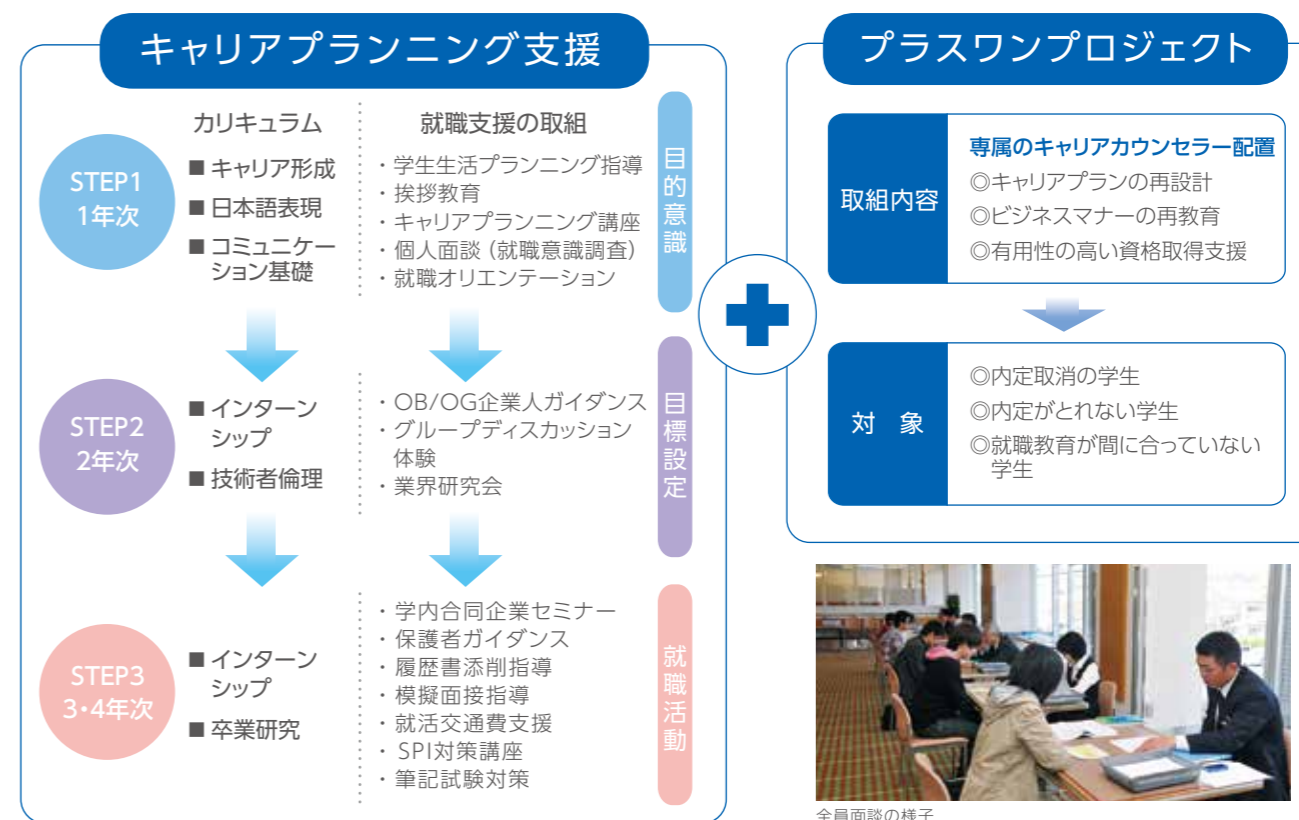
■他大学・企業との連携によるプログラムの充実



教員・事務職員が協働するキャリアプランニング支援

「学生・ご父母にとって進路が決定することの重要性」を強く認識しています。個人面談(全員面談)を起点・足掛りとして、面接・履歴書講座、業界研究会など、学生の能力向上に向けて様々なサポートを行いました。

■キャリアプランニング支援とプラスワンプロジェクト



全員面談の様子

国際教育ネットを通じて、step-by-stepの教育プログラムでグローバル人材を育成しています。

企業活動のグローバル化が進展、国際競争が激化し、グローバル・ビジネスの現場で活躍できる人材が求められています。本学では、その人材育成に向け、海外国際教育拠点設置、海外ネットワーク形成、国際化教育プログラム開発に力を入れています。

米国にカリフォルニアオフィス、学内に国際戦略室・Global Student Loungeを設置

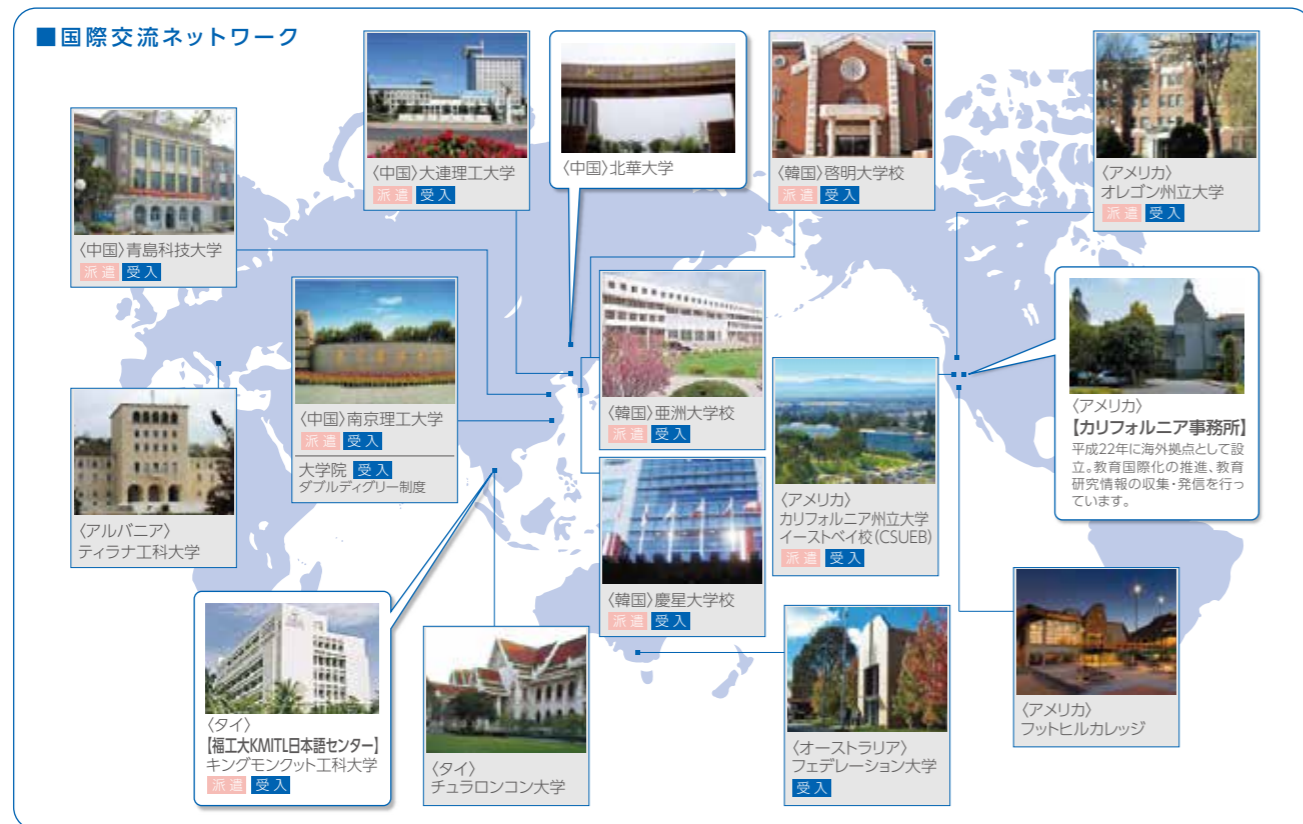
学生の米国留学・語学研修サポートや教職員の米国でのFD(教授・教育方法開発)、SD(職能開発)をサポートするためにカリフォルニアオフィスを設置しています。また、国際教育プログラムの開発・実施のために国際戦略室やGlobal Student Loungeを設置しています。



Global Student Lounge
留学や語学に興味のある学生や留学生との交流の場としても利用しています。

海外ネットワークを拡大、派遣・招請双方の留学経験者OBネットワークを形成

米国に3大学をはじめに6ヶ国14大学と学術交流・姉妹校協定を締結しています。また、留学経験者たちが相互にサポートし、いっそうグローバル人材として活躍できるように、派遣・招致双方の留学経験者OBネットワークを形成しています。



カリフォルニア州立大学イーストベイ校(CSUEB)との国際教育プログラム

企業等のグローバル人材として求められる知識・能力を確実に開発するために、CSUEBと共同で国際教育プログラムを開発・実施しています。また、同校とは教職員研修プログラム(FAST・LEADプログラム)も開発・実施しています。

■ グローバル人材育成プログラム



Step.1
1年次
海外英語研修
Intensive English Program

英語に興味がある学生を対象とした
充実の短期研修プログラム



・期間…3週間

Step.2
2年次
ACEプログラム
Advanced Culture and Education Program

日米共同開発教育プログラムでグローバルな
人材育成を目指す



・期間…3週間
(前半→CSUEB/後半→福工大)

Step.3
3年次
FINEプログラム
FIT International Exchange Program

最長1年間の留学ができる
福工大特別留学プログラム



・期間…3ヶ月～1年

大学院生
向け
STARプログラム
Step-up And Re learning Program

“グローバルマインド”を身につけた職業人を
育てるプログラム



・期間…12日間

■ 教職員海外研修プログラム(教育の質保証を導くSD・FDの取組み)

職員
FASTプログラム
FIT Administration Staff Training

中堅職員の職務能力向上を目指す
米国カリフォルニア州立大学派遣プログラム



・期間…2ヶ月

教員
LEADプログラム
Leadership Education Administration and Development

若手教員と職員が協働して教育研究・大学
運営力向上を目指す米国派遣プログラム



・期間…1ヶ月

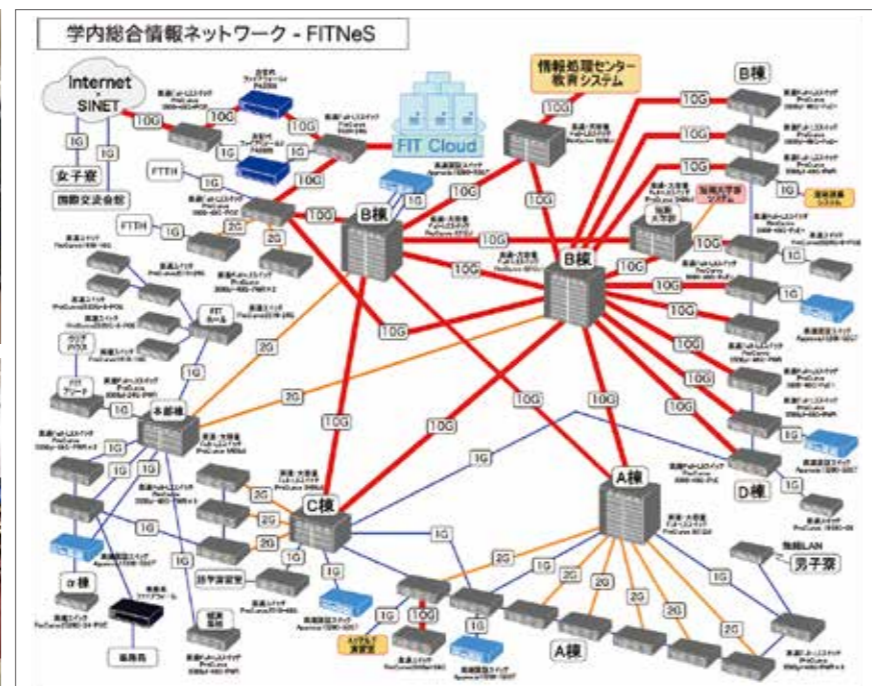
調べる力・創造する力・情報編集する力・発表する力・啓発する力の習得を課外でサポートしています。

社会から求められる能力・大学で習得しておくべきことについて、図書館・情報処理センター・モノづくりセンター・エクステンションセンターは、それらの主体的・能動的な学びを支える拠点となっています。

全学生にICT学習環境を提供。高度情報処理・情報編集力の習得をサポート

本学が導入した超高速ネットワークシステム（一般家庭の100倍）は、授業アーカイブシステムによる授業記録・電子ブック・電子ジャーナルへのアクセス・閲覧をストレスフリーにして学修効果を高めています。また、学生の授業理解度測定、高精細・高音質な教材提示等の授業支援機能も豊富です。

ICT学習環境を支える超高速ネットワーク



▶Microsoftと包括ライセンスを締結。学内全域に無線LAN・情報コンセントを敷設

学生のモノづくり意欲に、全国屈指の創造空間で対応。創作力の習得をサポート

「自ら考え、自らの手で作りたい」、その学生の意欲に対して、いつでも使えるオープンスペース、高精度の工作・工芸用の工作機械・器具や測定器、数百種のパーツ・マテリアル、そして専門技術スタッフのアドバイスで応えています。

モノづくりセンターのプロジェクト



二足歩行ロボット



ソーラーカー



ロボット相撲



電気自動車



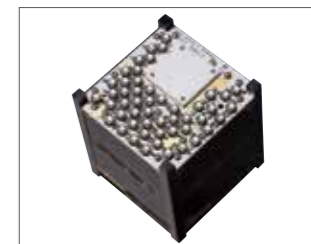
ビオトップ



ロボットコンテスト



手作りアクセサリ



小型衛星

学生の啓発意欲に「FIT 資格取得支援講座」で対応。自己啓発力を刺激・サポート

英語力アップに向けたTOEIC講座、就職対策として公務員講座、SPI対策講座、環境・流通系講座、事務能力講座、そしてIT能力向上に向けてMOS講座等を開講しています。これらの講座の1年間の受験者（平成26年度）は1,600名に達しました。

平成26年度 資格取得試験受験状況

資格・試験名	受験者数(名)
Microsoft office Specialist (MOS)	683
TOEIC	243
日商簿記検定(1級・2級・3級)	223
ITパスポート	113
秘書検定(準1級・2級・3級)	96
基本情報技術者試験 (FE)	94
環境社会検定試験 (eco検定)	46
WEBクリエイター(上級・初級)	31
CG検定	23
OCNA (ICND1・ICND2)	16
色彩検定(3級)	15
医療事務検定	8
応用情報技術者試験 (AP)	6
LPIC	2
情報処理セキュリティスペシャリスト (SC)	1
合計	1,600

エクステンションセンターの7つのメリット

- 1 学内ダブルスクールによる、時間・交通費の節約
- 2 合格実績の高い講師招聘による、確かな資格の取得
- 3 生涯学習支援の一環として、受講料は安価
- 4 エントリー資格から難関資格まで、多彩に用意
- 5 団体受験会場として、普段の授業と同じ環境で受験が可能
- 6 受験料の割引が適用可能
- 7 過去3年以内の卒業生は、在学生と同じ受講料で受講が可能

合宿研修、クラブ・サークル活動も重要な教育・学習の機会として奨励しています。

教室・研究室以外も重要な教育・研究フィールド。授業、研究活動以外の課外活動も重要な学習の機会と捉えて、合宿研修やクラブ・サークル活動を積極的にサポートしています。また、多様な奨学制度で諸活動を経済的側面からもサポートしています。

合宿研修も重要な教育機会。学生・教職員が共に集い学ぶセミナーハウス

「学生・生徒・教職員が共に集い、共に学び、実社会で通用性の高い人間性と知性を磨き高める」ことを趣旨として、セミナーハウスを整備しました。開設以降、毎年利用者が増加し、平成26年度の年間利用者は約2,000名におよんでいます。



FITセミナーハウス（大分県由布市）平成24年8月 開設



平成27年2月 モノづくりセンタープロジェクトリーダー研修会（23名参加）



FITセミナーハウス遊歩道



モノづくりセンタープロジェクトリーダー研修会 発表会の様子

▶平成26年度利用者数:学生・生徒934名、教職員等1,039名

クラブ・サークル活動も重要な学習の機会。学術・文化・スポーツ、多方面に活発

クラブ・サークル活動は人間性や社会性を育む重要な学びの機会として積極的に支援を行っています。学術・文化・スポーツの多方面で活発です。今年度は、ラグビー部、吹奏楽団、女子柔道部、弓道部、アイスホッケー部が特に優秀な成績を修めました。



強化クラブをはじめとして、競技会等で優秀な成績を取っています。特に秀でた活動に対して、表彰基準に沿って学長表彰を行いました。（詳細バックデータ集P48参照）

FIT奨学制度で、経済的側面からキャンパスライフをサポート

学業優秀者や特技優秀者がいっそう精励できるよう、また、経済的事由によって修学が困難になった場合に修学継続できるよう、多くの奨学制度を設けています。さらに、学業両立ができるアルバイトとして、学内ワークスタディを奨励、その機会も拡大しています。

■FIT奨学制度一覧

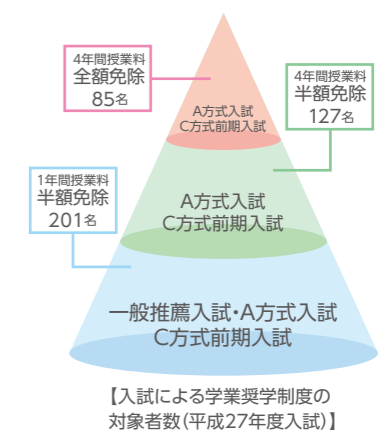
	学業特別奨学金		特技特別奨学金	経済的理由による特別奨学金
対象者	【2～4年次生】 学科から推薦された成績優秀者	【1年次生】 入試(A方式、C方式前期、 一般推薦)上位合格者	スポーツ・音楽の強化クラブ から推薦された者	返済義務のある奨学金を受給中の学生で、家計状況、成績や出席状況を審査し、認められた者
採用人数	各学年30名以内	—	若干名	60名以内
給付期間	1年間	4年間または1年間	1年間(最大4年間)	1年間(最大2年間)
金額	授業料の半額免除	授業料の全額または半額免除	授業料の全額または半額と施設設備費免除	授業料の半額免除
返済	不要	不要	不要	不要
備考	学業成績が一定に満たない場合等は取消しとなる			—

■同窓会育英金

対象者	2年次生以上及び院生で 勉学意欲があり、経済的に修学が困難な者
採用人数	8名
給付期間	1年間(最大2年間)
金額	授業料の半額免除
返済	不要

■私費外国人留学生に対する減免措置

対象者	経済的に修学が困難な私費外国人留学生で一定の成績を修めている者【2～4年次生】
給付期間	1年間
金額	授業料の半額免除
返済	不要
備考	協定校からの留学生は1年次生から対象となる



■学費減免以外の経済的サポート

学費延納・分納

経済的理由により学費の納付が困難な場合に、一定の範囲で徴収猶予を認めるなど、親身に寄り添う相談・支援体制を構築しています。

学内ワークスタディ

学内での教育支援や自身の社会性向上に資する活動に従事する学生をアルバイト雇用し、経済的に支援しています。(学内ワークスタディ)*1

*1 活動時間の上限設定など適切な学修上の配慮のもとで実施しています。

産業界・行政・他大学等と連携して、教育・研究活動の高度化や地域貢献に努めています。

大学相互、または大学とその関係企業・市町村等と連携して、それぞれが発展、共生・共創し、地域振興に繋げることを目指しています。大学・地域連携推進室の設置等によって、関係の取組の実質化・成果の拡大に努めました。

学生と地域社会の協働プロジェクトは、地域の活性化・安心・安全に貢献

キャンパスサミットは、学生と地域社会が一体となり、学生のフィールドワークや地域活性化に向けて様々な取組を検討・実施する会合です。ボランティア活動、青少年育成活動、地域美化活動、防犯・交通安全活動などを積極的に行いました。

■キャンパスサミットを核とした地域社会協働プロジェクト(地域貢献活動)



産業界・行政、産官学連携のネットワークは大きく拡大

本学の環境・情報・モノづくり(工学)領域の研究成果や技術を、地元企業の研究開発ニーズや行政の防災・減災・地域振興のニーズに適合させて相互発展と地域振興を目指しています。地元金融機関やマスコミの協力を得て、そのネットワークはさらに拡大しました。

■主な包括連携協定締結先(敬称略・締結順)

ふくおかフィナンシャルグループ、西日本シティ銀行、九電工、九州工業大学、西日本新聞社、新宮町

■平成26年度の主な包括連携協定

■古賀市・正興電機製作所 包括連携協定



平成26年7月締結

情報・制御技術の高度化及び関連分野での教育・人材育成に向けた研究交流や人材交流等を行う

■一般社団法人ガールスカウト福岡県連盟包括連携協定



平成27年2月締結

教育資源などを互いに提供しあい、女性の可能性を最大限引き出せる協力関係を構築する

■福岡和白病院・創生会包括連携協定



平成27年3月締結

環境の保全及び防災・防犯対策の推進、地域活性化及びまちづくりに関する取組等を行う

地域の環境問題に取り組むために、国公私3大学で環境分野連携の協定

環境系の学部・大学院を持つ福岡工業大学、長崎大学、熊本県立大学で、学術連携・協力の協定を結びました。大型プロジェクト研究も視野に入れて、地域性の高い環境問題の解決、次世代の環境系人材の育成などに取り組むことになりました。



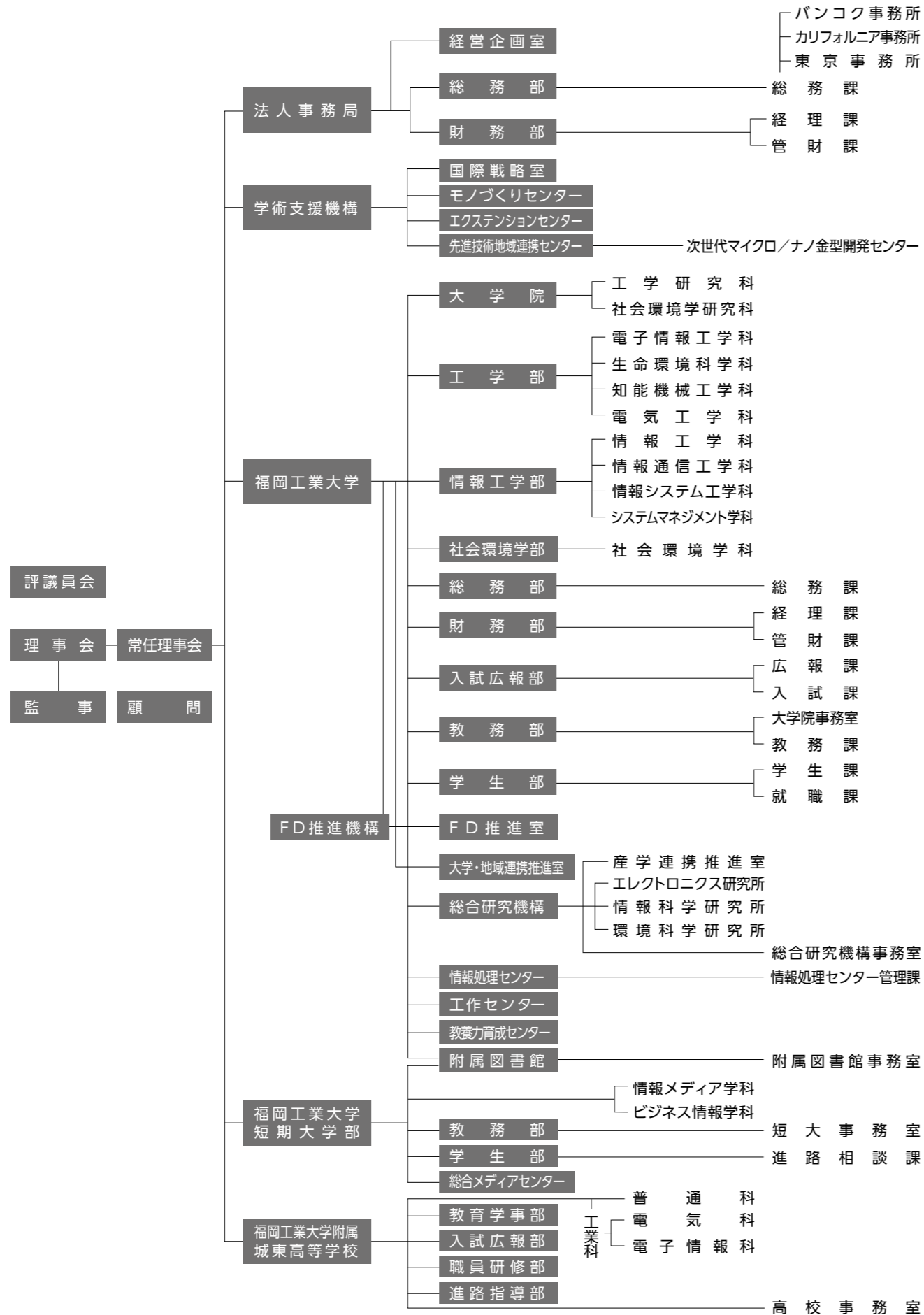
3大学学長の調印式



環境共生フォーラムの様子

▶ 環境系の大学連携の他に、キャリア教育の開発・実施等について、多様(3形態)な大学等連携を行っています。(詳細はP30「キャリア教育・就活支援の取組」参照)

組織図 平成27年4月1日現在



役員等の状況

■役員一覧 (平成27年4月1日現在)

職名	氏名	兼職名
理事(理事長)	鶴木 洋二	
理事(常務理事)	大谷 忠彦	
理事	下村 輝夫	大学、短期大学部学長
理事	園田 義男	附属城東高校長
理事(非常勤)	江頭 公成	
理事(非常勤)	川原 正孝	
理事(非常勤)	正司 博行	
理事(非常勤)	園田 勇	
理事(非常勤)	高田 洋征	
理事(非常勤)	森 紀久雄	
理事(非常勤)	米田 達郎	
理事(非常勤)	小幡 修	
理事(非常勤)	吉戒 孝	
監事(非常勤)	中尾 忠徳	
最高顧問	麻生 渡	

役員区分	定数	実数	選任条項別実数※
理事	9~13	12	1号2名、2号2名、3号8名
監事	2~3	2	
評議員	19~27	24	1号4名、2号3名、3号3名、4号14名

※1号理事：学長・校長、同2号：評議員、同3号：学職経験者
1号評議員：学長・校長・教職員、同2号：卒業生、同3号：父母
同4号：学職経験者

■部科長一覧 (平成27年4月1日現在)

職名	氏名
工学部長	村山 理一
情報工学部長	木室 義彦
社会環境学部長	李文忠
工学研究科長	大山 和宏
社会環境学研究科長	坂井 宏光
教務部長	松尾 敬二
学生部長	上寺 康司
図書館長	阿山 光利
情報処理センター長	若原 俊彦
総合研究機構長	田中 秀司
入試広報部長	倪 宝栄

職名	氏名
電子情報工学科長	盧 存偉
生命環境科学科長	永田 純一
知能機械工学科長	木野 仁
電気工学科長	高原 健爾
情報工学科長	前田 道治
情報通信工学科長	渡辺 仰基
情報システム工学科長	徳安 達士
システムマネジメント学科長	藤岡 寛之
社会環境学科長	中川 智治
エレクトロニクス研究所長	数仲 馬恋典
情報科学研究所長	山澤 一誠
環境科学研究所長	森山 聡之
産学連携推進室長	田中 秀司

教職員数

■教員数 (平成27年5月1日現在)

学校名	福岡工業大学									福岡工業大学短期大学部					
	工学部			情報工学部			社会環境学部			情報メディア学科			ビジネス情報学科		
学部・学科名	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
男女別															
教授	35	0	35	22	1	23	14	0	14	5	0	5	2	0	2
准教授	11	3	14	21	0	21	8	3	11	3	0	3	2	2	4
講師	0	0	0	3	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0
助教	6	3	9	7	2	9	2	2	4	1	0	1	0	0	0
合計	52	6	58	53	3	56	24	5	29	9	0	9	4	2	6

■職員数 (平成27年5月1日現在)

学校名	福岡工業大学			福岡工業大学短期大学部		
男女別	男	女	計	男	女	計
専任職員	60	13	73	2	2	4
嘱託職員	14	34	48	1	3	4
契約・派遣職員	0	26	26	0	1	1
合計	74	73	147	3	6	9

設置学部・学科/専攻概要

資格について
 ○/指定科目の単位を取得し、在学中または卒業と同時に取得できる資格
 ●/指定科目の単位を取得し、実務経験を修得して取得できる資格
 ◎/指定科目の単位を取得し、一部の学科試験が免除される資格
 ■/学科で取得を支援している資格
 □/カリキュラムの特色を生かした比較的取得しやすい資格

設置校	学部・研究科名	学科名	設置コース	教育研究上の目的	教員構成(人)*	取得可能学位	取得可能な教員免許	取得支援を実施している資格※		
大学	工学部	電子情報工学科	電子情報工学基盤コース 電子情報工学創成コース	現代社会において、科学技術者は、科学技術への貢献はもとより、社会人として自立し、広い視野に立ち柔軟な発想を行えることが求められている。本学科は、電子技術と情報技術が融合した技術分野において、このような要請に応えることができる実践型の人材の養成を目的とする。	教授 11 准教授 1 助教 2	学士 (工学)	高等学校教諭一種免許状(工業)	■基本情報技術者 ■ITパスポート ■MOS ■第一級陸上無線技術士 ■第一級陸上特殊無線技術士		
		生命環境科学科	生命環境科学基盤コース 生命環境科学アドバンスコース	地球の様々な環境問題が深刻化する今日、環境の管理、保全、改善と修復の基本理念を理解し、物理・化学的、及び生物学的アプローチ等の多様な先端技術を用いて、問題を解決する能力を持つ自立した物質系・生物系技術者の人材の養成を目的とする。	教授 8 准教授 6		高等学校教諭一種免許状(工業、理科) 中学校教諭一種免許状(理科)	◎食品衛生管理者・食品衛生監視員 ◎毒物劇物取扱責任者 ◎公害防止管理者(水質) ■バイオ技術者 ■危険物取扱者(甲・乙) ■環境測定分析士	■環境計量士 ■環境社会検定(eco検定)	
		知能機械工学科	知能機械設計コース 知能機械創成コース (JABEE認定)	情報技術と生産技術を融合した知能機械が主流となった機械分野において、基礎及び専門技術に関する知識と応用力を身につけるとともに、それらを駆使したデザイン能力とコミュニケーション能力を有し、技術者倫理をもってグローバルな活躍ができる人材の養成を目的とする。	教授 9 准教授 5 助教 2		高等学校教諭一種免許状(工業)	◎修習技術者(→技術士補) ■CAD利用技術者 ■機械設計技術者	■機械加工技能士	
		電気工学科	電気総合エンジニアコース 電気開発エンジニアコース	日々進歩する電気・電子・情報工学の技術を理解し、習得するための素養と専門知識及び技術を身につけ、国際感覚と倫理観を有するとともに、地域産業のニーズも理解し、地域的また国際的連携の両方を意識して活躍できるグローバルな技術人材の養成を目的とする。	教授 7 准教授 2 助教 4		高等学校教諭一種免許状(工業)	●電気主任技術者(第一種) ■電気主任技術者(第三種) ■電気工事士		
	情報工学科	情報工学科	コンピュータのソフトウェア・ハードウェアの基礎及び応用を教授研究し、プログラミングに習熟させるとともに、インターネットや人工知能、知能ロボット、自然言語処理、画像処理、データベース、マルチメディア、CG、システムSIなどの最先端のコンピュータ技術・応用技術を持つ専門的職業人及び教育研究者の人材の養成を目的とする。	教授 9 准教授 6 講師 1 助教 3	学士 (情報工学)	高等学校教諭一種免許状(情報、数学) 中学校教諭一種免許状(数学)	■ITパスポート ■基本情報技術者 ■Webクリエイター能力認定試験	■LPIC ■CCNA		
		情報通信工学科	今日の情報通信関連技術は、あらゆる産業分野における基幹技術としての影響力を持つようになり、社会生活の中に深く関係している。このように情報通信工学の裾野が限りなく広がり、技術的な可能性が満ち溢れる世界で、獨創性を発揮し、多様化する先端技術を開拓できる技術者及び情報通信関連分野の研究能力を有する人材の養成を目的とする。	教授 6 准教授 6		高等学校教諭一種免許状(情報、数学) 中学校教諭一種免許状(数学)	◎第一級陸上特殊無線技術士 ○/■電気通信主任技術者 ◎第三級海上特殊無線技術士 ○/■工事担任者(ネットワーク接続技術者) ○/■第一級陸上無線技術士 ■ITパスポート	■基本情報技術者 ■CCNA ■Webクリエイター能力認定試験 ■LPIC		
		情報システム工学科	情報システム設計コース 情報システム技術コース (JABEE認定)	今日まで発展を遂げてきた情報技術が社会的基盤となり、人々の暮らしを支える情報システムのサービス形態は、変化・適用・深化を繰り返しながらこれからも発展し続けていくことが予想される。本学科では、情報技術、ロボット制御、生体システムを柱とする実践的教育を展開し、技術者倫理、コミュニケーション能力、エンジニアリングデザイン能力を身につけることで、社会の持続的発展に不可欠な情報システムの設計・開発・運用に携わる技術者の養成を目的とする。		教授 4 准教授 6 講師 2 助教 2	高等学校教諭一種免許状(情報、数学) 中学校教諭一種免許状(数学)	◎修習技術者(→技術士補) ■ITパスポート ■基本情報技術者	■MOS ■LPIC ■CCNA ■Webクリエイター能力認定試験	
		システムマネジメント学科	高度に情報化、国際化が進む現代社会において、企業の生産管理技術と情報管理技術について、経営、生産、メディアの観点から基礎的な素養を身につける教育を行い、それらの知識に裏付けされた人間哲学に基づいてシステムのマネジメントを行える人材の養成を目的とする。	教授 4 准教授 3 助教 3		高等学校教諭一種免許状(情報、数学) 中学校教諭一種免許状(数学)	■ITパスポート ■基本情報技術者 ■Webクリエイター能力認定試験	■LPIC ■CCNA ■DTPエキスパート	■CGクリエイター検定 ■CGエンジニア検定	
	社会環境学部	社会環境学科	環境に関わる諸問題に関して主として社会科学及び人文科学の立場からアプローチし、個人・企業・社会全体の仕組みを理解した上で、環境調和型の社会実現に貢献することのできる実践型の人材の養成を目的とする。	教授 14 准教授 11 助教 4	学士 (社会環境学)	高等学校教諭一種免許状(公民) 中学校教諭一種免許状(社会)	■環境社会検定(eco検定) ■環境管理士 ■販売士検定	■MOS ■ピオトップ管理士 ■3R低炭素社会検定 ■日商簿記検定		
	大学院	工学研究科	物質生産システム工学専攻 (博士後期課程)	物質生産システム工学専攻は、電子物性工学、機能材料応用工学、エネルギーシステム工学及び設計生産システム工学分野において研究者として自立して研究活動を行い、又はその高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力及びその基盤となる豊かな学識を養う。	教授 19 准教授 2	博士 (工学)				
知能情報システム工学専攻 (博士後期課程)			知能情報システム工学専攻は、知能情報工学、情報伝送工学、知的メディア工学及び情報制御システム工学分野において研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力及びその基盤となる豊かな学識を養う。	教授 16 准教授 3						
工学研究科		電子情報工学専攻	現代社会は、コンピュータを先頭とした電子情報技術が著しく発達し、広く普及している社会である。本専攻では、広い視野に立って、電子情報工学の理論及び応用を教授、研究し、高度な専門知識を背景に、獨創的な研究開発能力を身につけた技術者を養成することを目的とする。	教授 9 准教授 1 助教 2	修士 (工学)	高等学校教諭専修免許状(工業)				
		生命環境科学専攻	本学の建学の綱領に基づき、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめ、科学技術や社会の進歩向上に寄与する人材を育成することを目的とする。具体的には本専攻では、広い視野に立って精深な学識を授け、物質工学及び生物工学を中心とした専攻分野における研究能力又はこれに加えて高度の専門性が求められる職業を担うための卓越した能力を培うことを目的とする。	教授 7 准教授 5		高等学校教諭専修免許状(理科)				
		知能機械工学専攻	機械工学は、ナノ・マイクロテクノロジーから巨大システムまで基盤となる技術を開拓していく学問分野です。機械工学はそれ自身の高度化、先進化及び微細化とともに電子情報技術の飛躍的な発達により機械の知能化が進んでいます。本専攻では機械工学の基礎分野の知識を十分修得した上で、さらに発展・進化させるための獨創的な研究・開発能力を養成することを目的とする。	教授 9 准教授 3		高等学校教諭専修免許状(工業)				
		電気工学専攻	本専攻は電気系工学・技術の分野において活躍できる、高度の問題解決能力と研究開発能力を備えた技術者を育成することを教育の目的とする。このため工学部電気系学科修得課程の基礎知識を有する学生を対象に、進歩を続ける技術に長期的に対応して行けるよう電気関連主要分野の深い基礎理論を講究するとともに、並行してこの分野の先端的研究テーマについての研究に取り組み創造的対応能力を培う。	教授 7 准教授 2 助教 4		高等学校教諭専修免許状(工業)				
		情報工学専攻	人工知能や集積回路、マルチメディアや画像処理、データベースやソフトウェア開発などの情報工学分野で高度な専門知識や技術を修得するとともに、さらに発展・進化させるための獨創的な研究・開発能力を養成することを目的とする。	教授 8 准教授 5 助教 1		高等学校教諭専修免許状(数学) 中学校教諭専修免許状(数学)				
		情報通信工学専攻	携帯電話や無線LAN、光ファイバ伝送などの情報伝送技術やインターネットなどの情報ネットワークの分野で高度な専門知識や技術を修得するとともに、さらに発展・進化させるための獨創的な研究・開発能力を養成することを目的とする。	教授 5 准教授 6		高等学校教諭専修免許状(数学) 中学校教諭専修免許状(数学)				
		管理工学専攻	人間社会に関わるあらゆるものをシステムとしてとらえて、それらのシステムから得られる情報を利用して、システムの調査、分析、設計、評価が必要に応じて制御設計ができるようにする。とくに、生産管理システム、医用生体システム、生体情報システム、ビジネスシステム、視覚情報システム、一般的物理システム、情報メディアに関して、教育研究を行うことを目的とする。	教授 8 准教授 7 助教 2		高等学校教諭専修免許状(数学) 中学校教諭専修免許状(数学)				
社会環境学専攻	環境に関わる諸問題に関して主として社会科学及び人文科学の立場からアプローチし、個人・企業・社会全体の仕組みを研究する能力を醸成した上で、環境調和型の社会実現に貢献することのできる高度な専門性が求められる職業を担うための能力を培うことを目的とする。	教授 5 准教授 6 助教 1	修士 (社会環境学)							
短大	短期大学部	情報メディア学科	情報メディア学科は、コンピュータの基礎および応用技術について、演習を中心とした科目を通して教授するとともに、社会人として必要な一般常識やマナーなども習得させ、心豊かな社会人として情報技術、情報メディアおよびエレクトロニクスの各分野で即戦力として働ける技術者を養成することを目的とする。	教授 5 准教授 3 助教 1	短期大学士		■基本情報技術者 ■応用情報技術者 ■ITパスポート試験 ■秘書検定 ■日商PC検定	■建築CAD検定 ■CAD利用技術者 ■実用英語技能検定 ■色彩検定 ■医療事務	■CGエンジニア検定 ■マルチメディア検定 ■日本語能力検定 ■日商簿記検定 ■福祉住環境コーディネーター	■CGクリエイター検定 ■ドットコムマスター ■TOEIC ■Webデザイナー検定
		ビジネス情報学科	ビジネス情報学科は、現代の情報化社会で必要とされる情報技術について、演習を中心とした科目を通して教授するとともに、社会人として必要な一般常識やマナーなども習得させ、心豊かな社会人として電子ビジネス、福祉・医療あるいは小売業などの各種産業の事務部門や管理・運営部門で活躍できる人材を養成することを目的とする。	教授 2 准教授 4						

※平成27年4月1日現在

平成26年度学位授与数

■学士・短期大学士授与数

学部等名	授与数
工学部	309
情報工学部	388
社会環境学部	171
短期大学部	169

■博士・修士授与数

研究科名	修士授与数	博士授与数
工学研究科	51	8
社会環境学研究科	2	0

■JABEEコース修了者数

コース名	修了者数
知能機械創成コース (知能機械工学科)	5
情報通信先端工学コース (情報通信工学科)	22
情報システム技術コース (情報システム工学科)	6

学生数

■大学、短期大学部在籍学生数 (各年5月1日現在)

学部	学科	平成26年度					平成27年度		
		定員	現員	定員充足率	留年者数	退学・除籍者数	定員	現員	定員充足率
工学部	電子情報工学科	320	377	1.18	38	17	330	397	1.20
	生命環境科学科	320	387	1.21	37	15	330	390	1.18
	知能機械工学科	400	476	1.19	53	17	410	513	1.25
	電気工学科	320	382	1.19	33	16	330	402	1.22
	合計	1,360	1,622	1.19	161	65	1,400	1,702	1.22
情報工学部	情報工学科	480	613	1.28	28	19	490	614	1.25
	情報通信工学科	320	421	1.32	41	15	330	445	1.35
	情報システム工学科	320	417	1.30	34	19	330	430	1.30
	システムマネジメント学科	240	320	1.33	19	6	245	327	1.33
	合計	1,360	1,771	1.30	122	59	1,395	1,816	1.30
社会環境学部	社会環境学科	660	756	1.15	38	19	670	769	1.15
大学院	工学研究科(修士)	116	118	1.02	5	5	116	105	0.91
	工学研究科(博士)	12	13	1.08	3	0*	12	10	0.83
	社会環境学研究科	12	11	0.92	0	4	12	9	0.75
	合計	140	142	1.01	8	9	140	124	0.89
福岡工業大学・大学院合計		3,520	4,291	1.22	329	152	3,605	4,411	1.22
短期大学部	情報メディア学科	210	273	1.30	14	30	210	271	1.29
	ビジネス情報学科	110	130	1.18	5	7	110	124	1.13
福岡工業大学短期大学部合計		320	403	1.26	19	37	320	395	1.23

*単位取得退学者は含まない(2名)

■高等学校在籍生徒数 (各年5月1日現在)

課程	平成26年度			平成27年度		
	定員	現員	定員充足率	定員	現員	定員充足率
普通科	1,050	1,358	1.29	1,050	1,364	1.30
工業科	600	666	1.11	600	659	1.10
福岡工業大学附属城東高等学校合計	1,650	2,024	1.23	1,650	2,023	1.23

■国別留学生数 (平成26年5月1日現在)

	中国	韓国	タイ	ベトナム	ネパール
大学	38	1	2	1	0
短期大学部	2	0	0	0	1
大学院	47	0	11	0	0
研究生	2	0	0	0	0
科目等履修生	3	1	0	0	0
合計	92	2	13	1	1

平成27年度入試状況

■大学

学部	学科	定員	特別推薦			一般推薦			一般A方式			一般C方式※			留学生			合計		
			志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者
工学部	電子情報工学科	90	23	23	22	34	22	13	220	112	45	467	232	35	2	2	2	746	391	117
	生命環境科学科	90	29	26	26	30	16	11	276	100	22	420	197	34	1	1	0	756	340	93
	知能機械工学科	110	38	34	34	68	34	27	379	151	38	439	188	35	6	2	1	930	409	135
	電気工学科	90	40	35	35	58	23	20	246	118	31	411	174	20	1	0	0	756	350	106
	学部合計	380	130	118	117	190	95	71	1,121	481	136	1,737	791	124	10	5	3	3,188	1,490	451
情報工学部	情報工学科	130	49	44	44	72	38	30	416	122	37	610	184	33	2	0	0	1,149	388	144
	情報通信工学科	90	39	36	36	28	22	18	133	54	23	370	211	52	3	3	3	573	326	132
	情報システム工学科	90	20	20	20	40	28	19	186	86	30	405	246	44	0	0	0	651	380	113
	システムマネジメント学科	65	27	26	26	15	11	9	77	43	23	273	169	23	1	0	0	393	249	81
	学部合計	375	135	126	126	155	99	76	812	305	113	1,658	810	152	6	3	3	2,766	1,343	470
社会環境学部	社会環境学科	160	76	75	75	40	35	26	145	89	36	347	237	45	2	2	1	610	438	183
	合計	915	341	319	318	385	229	173	2,078	875	285	3,742	1,838	321	18	10	7	6,564	3,271	1,104

※前期入試、後期入試の合計

■大学(編入学)

学部	学科	定員※	志願者	合格者	入学者
工学部	電子情報工学科	-	2	1	0
	生命環境科学科	-	0	0	0
	知能機械工学科	-	0	0	0
	電気工学科	-	2	2	2
	学部合計	-	4	3	2
情報工学部	情報工学科	-	21	11	11
	情報通信工学科	-	4	3	3
	情報システム工学科	-	13	6	5
	システムマネジメント学科	-	4	4	2
	学部合計	-	42	24	21
社会環境学部	社会環境学科	30	25	21	20
	合計	-	71	48	43

※工学部、情報工学部は定員未設定

■大学院

研究科	専攻	定員	一般※1			協定校※2			外国人※3			合計		
			志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者
工学研究科	電子情報工学専攻	8	7	5	4	8	6	5	0	0	0	15	11	9
	生命環境科学専攻	8	12	8	4	0	0	0	0	0	0	12	8	4
	知能機械工学専攻	8	11	10	10	3	1	1	0	0	0	14	11	11
	電気工学専攻	8	2	2	2	3	3	2	0	0	0	5	5	4
	情報工学専攻	10	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3	3	3
	情報通信工学専攻	8	6	6	5	0	0	0	0	0	0	6	6	5
	管理工学専攻	8	4	4	4	2	2	2	1	1	1	7	7	7
	工学研究科合計	58	43	36	30	17	13	11	2	2	2	62	51	43
社会環境学研究科	社会環境学専攻	6	2	2	2	3	2	2	0	0	0	5	4	4
	修士課程合計	64	45	38	32	20	15	13	2	2	2	67	55	47
工学研究科 (博士後期課程)	物質生産システム工学専攻	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	知能情報システム工学専攻	2	2	2	2	0	0	0	0	0	0	2	2	2
	博士後期課程合計	4	2	2	2	0	0	0	0	0	0	2	2	2

※1 推薦入試、一次・二次入試の合計 ※2 キングモンクット工科大学(タイ)、南京理工大学(中国)、青島科技大学(中国) ※3 一次・二次入試の合計

■短大

学科	定員	特別推薦※1			一般推薦※2			自己推薦対話型			一般※3			一般C方式※4			留学生			合計			
		志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者	
情報メディア学科	105	55	55	55	10	9	7	18	18	18	136	69	43	92	44	12	2	0	0	313	195	135	
ビジネス情報学科	55	30	30	30	7	7	6	20	20	20	21	14	5	71	22	2	0	0	0	149	93	63	
	合計	160	85	85	85	17	16	13	38	38	38	157	83	48	163	66	14	2	0	0	462	288	198

※1 付属校・指定校推薦入試の合計 ※2 A・B入試の合計 ※3 一期A・B、二期入試の合計 ※4 前期・後期入試の合計

卒業・修了生累計、同窓会員数

■卒業・修了生累計

49,655名 (平成27年3月31日現在)

学部 37,203名
大学院 1,261名
短大部 11,191名

■地域別同窓会会員数 (平成27年2月28日現在)

地域名	会員数	地域名	会員数
北海道・東北	10	中国	3,142
関東	770	四国	1,211
東海	281	九州・沖縄	20,679
関西・北陸	722	合計	26,815

平成26年度進路状況 平成27年3月卒業生

■大学

学部名	学科名	卒業生数	就職希望者数	就職内定者数	大学院進学者数	就職内定率
工学部	電子情報	80	73	73	5	100.0%
	生命環境	75	64	64	5	100.0%
	知能機械	82	72	72	10	100.0%
	電気	72	69	69	2	100.0%
	学部合計	309	278	278	22	100.0%
情報工学部	情報	134	126	124	1	98.4%
	情報通信	94	84	83	5	98.8%
	情報システム	83	73	72	4	98.6%
	システムマネジメント	71	64	63	1	98.4%
	学部合計	382	347	342	11	98.6%
社会環境学部	社会環境	170	155	148	3	95.5%
	大学合計	861	780	768	36	98.5%

■大学院修士課程

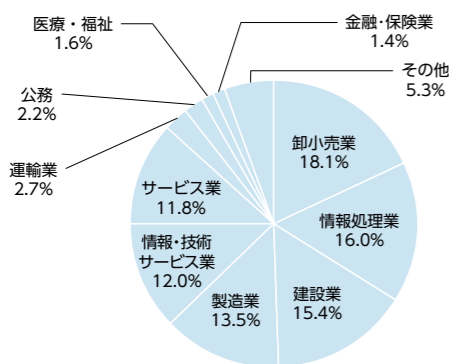
専攻名	卒業生数	就職希望者数	就職内定者数	進学者数	就職内定率
電子情報	8	7	7	0	100.0%
生命環境	5	5	3	0	60.0%
知能機械	6	5	5	0	100.0%
電気	6	4	4	0	100.0%
情報	9	9	7	0	77.8%
情報通信	8	6	6	2	100.0%
管理	6	4	4	0	100.0%
社会環境	2	0	0	0	-
大学院合計	50	40	36	2	90.0%

■短期大学部

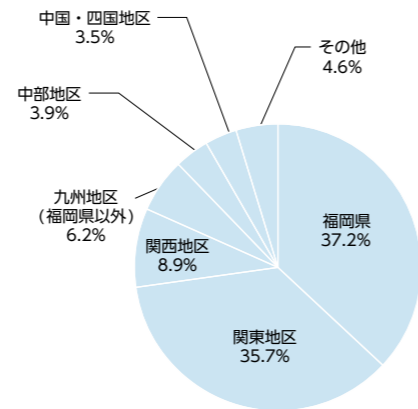
専攻名	卒業生数	就職希望者数	就職内定者数	進学者数	就職内定率
情報メディア	108	35	34	56	97.1%
ビジネス情報	61	44	43	8	97.7%
短大合計	169	79	77	64	97.5%

主要就職先 平成27年3月卒業生

■大学・業種別

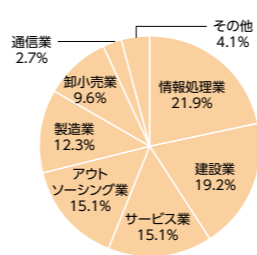


■大学・地区別



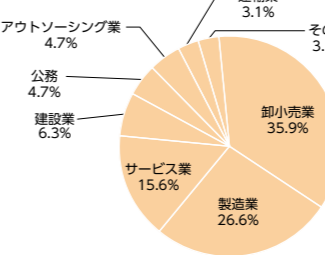
電子情報工学科

(株)きんでん/新関西国際空港エンジニアリング(株)/(株)四電工/タカハ機工(株)/(株)フジック/三菱電機マイコン機器ソフトウェア(株)/東芝日コンシステム(株)/安川モーター(株)/長崎キヤノン(株)/大牟田ガス(株)/NECソリューションイノベーション(株)/大塚商会/エヌ・ティ・ティ・システム開発(株)/(株)九州地区農協オンラインセンター/九電ビジネスソリューションズ(株)/九州通信ネットワーク(株)/東芝メテカシステムズ(株)/(株)サンリア/(株)アステム/エヌ・イー・シーエレベーター(株)/TOTOMENテクノス(株)/(株)メテックフィルダース/(株)アルプス技研/始良市役所 など



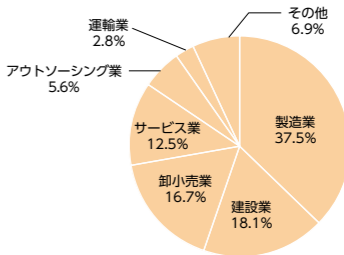
生命環境科学科

山九プラントテクノ(株)/ゼオライト(株)/(株)丸島/露島酒造(株)/(株)関電工/パナソニックESエンジニアリング(株)/(株)きんでん/(株)九電工/パナソニックESエンジニアリング(株)高速オフセット(株)神戸製鋼所加古川製鉄所/(株)明和eテック/安川モーター(株)/福岡造船(株)/東洋ホイスト(株)/長崎キヤノン(株)/日本フレックス工業(株)/(株)ドッド・ウエルビー・エム・エス/(株)IBUKI/ホンザキ北九(株)/山口白産自動車(株)/(株)ホンダカーズ福岡/エヌ・イー・シーエレベーター(株)/(株)アルプス技研 など



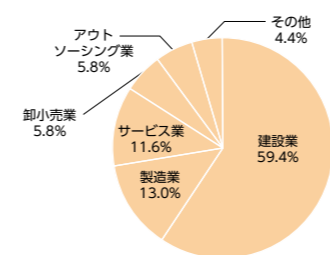
知能機械工学科

山九プラントテクノ(株)/三菱プラントエンジニアリング(株)/(株)関電工/パナソニックESエンジニアリング(株)/(株)きんでん/(株)九電工/パナソニックESエンジニアリング(株)高速オフセット(株)神戸製鋼所加古川製鉄所/(株)明和eテック/安川モーター(株)/福岡造船(株)/東洋ホイスト(株)/長崎キヤノン(株)/日本フレックス工業(株)/(株)ドッド・ウエルビー・エム・エス/(株)IBUKI/ホンザキ北九(株)/山口白産自動車(株)/(株)ホンダカーズ福岡/エヌ・イー・シーエレベーター(株)/(株)アルプス技研 など



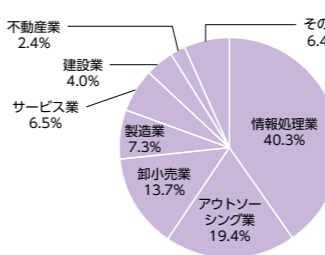
電気工学科

三菱電機プラントエンジニアリング(株)/(株)関電工/(株)日立プラントサービス/三菱電機パワー施設(株)/パナソニックESエンジニアリング(株)/(株)きんでん/住友電設(株)/(株)中電工/(株)九電工/(株)佐藤工/九星飲料工業(株)/日本電産テクノ/モータ(株)/サンデンホールディングス(株)/(株)ジェイアール西日本新幹線テクノ/東洋ホイス(株)/富士通(株)/中国木材(株)/(株)ドッド・ウエルビー・エム・エス/エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ(株)/三菱電機住環境システムズ(株)/(株)コスモス薬品(株)ティーティーエス企画/エヌ・イー・シーエレベーター(株)/三菱ビルテクノ/サービス(株)/(株)アルプス技研 など



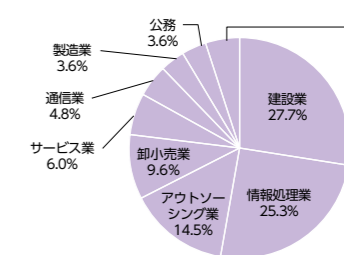
情報工学科

(株)高田工業所/(株)トスデリカ/(株)三陽商会/文化シャッター(株)/(株)サタケ/ニシム電子工業(株)/(株)ダイテック/大王パルケージ(株)/エヌ・ティ・ティ・システム開発(株)/JR九州システムソリューションズ(株)/(株)富士通九州システムサービス/(株)富士通鹿児島インフォネット/キヤノンシステムアンドサポート(株)/エコー電子工業(株)/ホンザキ南九(株)/九州キリンビバレッジサービス(株)トヨタカラー長崎(株)/(株)福岡銀行/西日本シティ銀行(株)/アッパル不動産(株)/八幡中央高校/久留米工業大学/(株)にしけい/(株)ジェイテック/福岡県警察 など



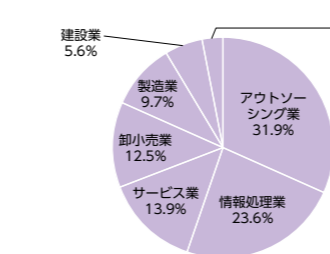
情報通信工学科

日本コムシス(株)/西部電機工業(株)/エスティケイテクノ/ロジック(株)/(株)九研/九州ダンボール(株)日本コンピュータ/(株)システム/メディアアイブ(株)/(株)NITTFiberデータ/(株)エヌ・ティ・ティ・システム/ユニコム/マルチメディアソリューションズ(株)/キヤノンシステムアンドサポート(株)/エコー電子工業(株)/(株)ヨドバシカメラ/飯塚信用金庫/県立小倉工業高等学校/(株)ジャパンネットワークグループ/ひくちホールディング(株)/ジャパンエレベーターサービス(株)/(株)アルプス技研/国家公務員(大学卒業程度)/福岡県警察 など



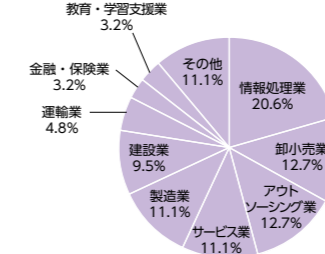
情報システム工学科

(株)ミライト/西部電気工業(株)/吉川工業(株)/(株)オートシステム/グリックエンターテイメント(株)/(株)アイティーオー/九州セキスイハイム工業(株)/(株)ISTソフトウェア/協立システム開発(株)/(株)日立ソリューションズ西日本/(株)福岡CSK/西日本旅客鉄道(株)/アプライド(株)(アプライドグループ)/イオン九州(株)/学校法人啓学園啓明高等学校/粕屋農業協同組合/佐賀県農業協同組合中央会/タイラグループ/三菱電機システムサービス(株)/エヌ・イー・シーエレベーター(株)/(株)リクルートスタッフィング/(株)アルプス技研 など



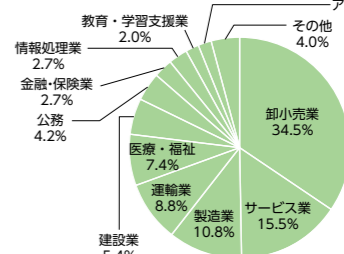
システムマネジメント学科

(株)九電工/五洋食品産業(株)/アド印刷(株)/(株)アステム/タキゲン製造(株)/サガ電子工業(株)/(株)サジスキ/ダイネン(株)/富士通工務システムズ(株)/キヤノンアルゴリズムロジック(株)/日本郵便(株)/西濃運輸(株)/西部機材(株)/(株)エディオン/鹿児島信用金庫/アイオ/(株)西日本介護サービス/福岡工業高等学校/北九州市中学校/社会福祉法人創生会/(株)エイジック/大分県土地改良事業団連合会水士土ネット大分 など



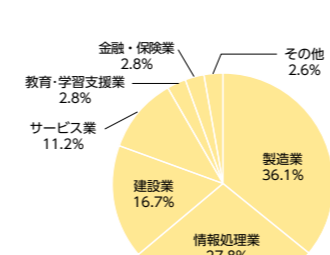
社会環境学科

(株)宮崎電気商会/(株)千鳥園園芸本舗/(株)サンテック九州/協立エナテック(株)/末松九機(株)/(株)山根精機/(株)エナジックインターナショナル/(株)ウイズユニティ/ANA福岡空港(株)/九州旅客鉄道(株)/(株)三菱電機ライフネットワーク/九州スズキ販売(株)/九州三菱自動車販売(株)/SMBCフレンド証券/日本郵政グループ/西日本シティ証券(株)/竹添不動産/ルートイングループ/社会福祉法人財団法人福岡白病院/(有)放牧/学校法人中村学園中村学園事業部/(株)はるおか/全国共済農業協同組合連合会福岡県本部/(株)サンニックス/京都府警察本部/福岡県警察 など



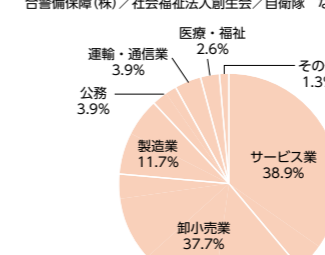
大学院

(株)ミライト/ジャパンエンジニアリング(株)/(株)ゼンリン/日鉄住金鋼板(株)/(株)明和eテック/(株)東芝/(株)日立製作所/安川モーター(株)/東明エンジニアリング(株)/リンテック(株)/(株)日本デジタル研究所/三菱電機インフォメーションネットワーク(株)/日本プロセス(株)/中国人民銀行/久留米市立南筑高等学校/(株)IHI検査計測/三菱電機エンジニアリング(株)/(株)アルプス技研 など



短大

熊川工業(株)/日本食品(株)/パオ・メタル(株)/TOTO(株)/(株)ブリヂストン/(株)山根精機/(株)キーストーン/(株)日本テレメッセ/九州鉄道営業(株)/タンスのゲン(株)/(株)オンワード樺山/(株)ヨドバシカメラ/ジャパン福岡・パepsコーラ販売(株)/(株)岩田屋三越/ネットヨタ北九州(株)/ハウスデンボス(株)/森都病院/アイオ/ナビ個別指導学院/(株)光進ガードシステム/福岡総合警備保障(株)/社会福祉法人創生会/自衛隊 など



主要進学先 平成27年3月卒業生

■大学

- 福岡工業大学大学院修士課程
- 九州大学総合理工学府
- 北陸先端科学技術大学院大学知識科学研究科
- 九州産業大学大学院国際文化研究科

■短期大学部

- 福岡工業大学工学部
- 福岡工業大学情報工学部
- 福岡工業大学社会環境学部
- 九州工業大学情報工学部

- 鹿児島大学工学部
- 徳島大学工学部
- 佐賀大学理工学部
- 琉球大学工学部
- 札幌市立大学デザイン学部
- 名城大学国際学群
- 久留米大学経済学部
- 久留米大学商学部
- 福岡大学商学部
- 九州産業大学情報科学部

- 中村学園大学流通科学部
- 九州情報大学経営情報学部
- 別府大学国際経営学部
- 日本文理大学工学部
- 日本文理大学経営経済学部
- 佛教大学社会福祉学部
- 関東学院大学経済学部
- 日本福祉大学社会福祉学部
- 大阪電気通信大学総合情報学部
- 大阪産業大学人間環境学部

平成27年度学費・徴収金

■大学

(単位:円)									
学部	学年	入学金	授業料	施設・設備費	実験実習費	図書費	学生厚生費	学生諸費※	合計
工学部・情報工学部	1年次	220,000	780,000	250,000	88,000	10,000	19,000	61,300	1,428,300
	2年次以降	-	780,000	250,000	88,000	10,000	19,000	-	1,147,000
社会環境学部	1年次	220,000	630,000	150,000	-	10,000	19,000	61,300	1,090,300
	2年次以降	-	630,000	150,000	-	10,000	19,000	-	809,000

※学生諸費の内訳:学生自治会費28,000円、後援会費20,000円、学生教育研究災害傷害保険料3,300円、アルバム代10,000円 部分は前・後期分納 ※教科書代が別途必要です。

■短期大学部

(単位:円)									
学部	学年	入学金	授業料	施設・設備費	実験実習費	図書費	学生厚生費	学生諸費※	合計
情報メディア学科	1年次	170,000	590,000	160,000	98,000	5,000	15,000	27,750	1,065,750
	2年次以降	-	590,000	160,000	98,000	5,000	15,000	-	868,000
ビジネス情報学科	1年次	170,000	590,000	160,000	98,000	5,000	15,000	27,750	1,065,750
	2年次以降	-	590,000	160,000	98,000	5,000	15,000	-	868,000

※学生諸費の内訳:学生自治会費10,000円、後援会費6,000円、学生教育研究災害傷害保険料1,750円、アルバム代10,000円 部分は前・後期分納 ※教科書代が別途必要です。

学生表彰

■大学院

- 2013 International SoC Design Conference IEK Best Paper Award
- ICNCS 2013 The Best Oral Presentation Award 淡路
- ICEET 2013 The Best Oral Presentation Award
- SOMHA WORAWIT (工学研究科 博士後期課程 知能情報システム工学専攻)
- NBiS 2014 Best Paper Award
- 武末 正文 (工学研究科 博士後期課程 知能情報システム工学専攻)
- 日本機械学会 三浦賞
- 平川 鉄磨 (工学研究科 修士課程 知能機械工学専攻)
- 電気学会 九州支部長賞
- 岳 晨昕 (工学研究科 修士課程 電気工学専攻)
- ITCS 2013 Best Paper Award
- EIDWT 2013 Best Paper Award
- BWCCA 2014 Best Paper Award
- 坂本 真仁 (工学研究科 修士課程 情報通信工学専攻)
- 電子情報通信学会 ライフインテリジェンスとオフィス情報システム研究会
- LOIS若手研究者賞
- 電子情報通信学会 総合大会 ISS優秀ポスター賞
- 電子情報通信学会 I-Discoverチャレンジ2013 優秀賞
- 電子情報通信学会 総合大会 学術奨励賞

- 電子情報通信学会九州支部 学生会講演奨励賞
- 電子情報通信学会 九州支部 学術奨励賞
- 電子情報通信学会 I-Discoverチャレンジ2014 優秀賞
- 横 俊孝 (工学研究科 修士課程 情報通信工学専攻)

■大学

- 電子情報通信学会九州支部成績優秀賞
- 今村 彰吾 (電子情報工学部)
- 日本金属学会・日本鉄鋼協会九州支部長賞
- 江崎 優太 (生命環境科学部)
- 日本金属学会・日本鉄鋼協会九州支部長賞
- 山本 麻衣花 (生命環境科学部)
- 表面技術協会九州支部優秀学生賞
- 福井 崇夫 (生命環境科学部)
- 資源・素材学会 九州支部
- Outstanding Student Award, Kyushu MMJ
- 電口 大宜 (生命環境科学部)
- 日本機械学会 畠山賞
- 今井 拓郎 (知能機械工学部)
- 電気学会九州支部長賞
- 木村 真充 (電気工学部)

- 電気設備学会九州支部賞、
- 2014電気設備学会全国大会発表奨励賞
- ブイ チョンザップ (電気工学部)
- 電子情報通信学会九州支部成績優秀賞
- 西村 彰悟 (情報工学部)
- 電子情報通信学会九州支部成績優秀賞
- 松本 慎平 (情報通信工学部)
- 電子情報通信学会九州支部成績優秀賞
- 藤原 正幸 (情報システム工学部)
- 日本経営工学会優秀学生賞
- 嶋村 太成 (システムマネジメント学科)

■短大

- 電気学会 九州支部長賞
- 富吉 章寿 (情報メディア学科)
- CG-ARTS協会賞
- 上田 鮎美 (情報メディア学科)

■卒業時成績優秀者

- 松田 勇太 (電子情報工学部)
- 山本 麻衣花 (生命環境科学部)
- 今井 拓郎 (知能機械工学部)
- 兎田 直也 (電気工学部)
- 湯田 征也 (情報工学部)
- 浅野 経太郎 (情報通信工学部)
- 藤原 正幸 (情報システム工学部)
- 柴田 香織 (システムマネジメント学科)
- 松永 尚子 (社会環境学科)

- 内倉 佑基 (情報メディア学科)
- 渡辺 翔 (情報メディア学科)
- 宋 宏美 (ビジネス情報学科)

■団体表彰

- 平成26年度九州学生春季リーグ戦I部優勝
- 第22回九州学生リーグI部決勝リーグ優勝
- ラグビー部
- 平成26年度九州吹奏楽コンクール金賞
- 第62回全日本吹奏楽コンクール銀賞
- 吹奏楽団
- 平成26年度九州学生女子柔道優勝大会(3人制の部)3位
- 女子柔道部
- 弓道北部リーグ男子団体準優勝
- 弓道北部リーグ女子団体3位
- 弓道部
- 第22回パピオ杯争奪アイスホッケーサマーリーグ3位
- 第35回九州学生アイスホッケーリーグII部リーグ3位
- アイスホッケー部
- アクションサッカー九州大会DivisionC優勝
- アクションサッカー愛好会

■個人表彰

- 第43回福岡六大学野球春季、秋季リーグ戦個人表彰・ベストナイン
- 笛田 怜平 (社会環境学科)
- 国師 滉史郎 (社会環境学科)
- 河野 勇磨 (システムマネジメント学科)
- 田中 宏征 (社会環境学科)

- 矢野 文裕 (社会環境学科)
- 平井 千波 (社会環境学科)
- 平成26年度九州学生ラグビーリーグI部個人表彰
- 平川 ほのか (生命環境科学部)
- 第8回福岡県アンサンブルコンテスト トロンボーン8重奏金賞
- 福本 諒介 (情報通信工学部)
- 嶋山 ちさと (社会環境学科)
- 山下 泰輝 (社会環境学科)
- 高島 恵介 (社会環境学科)
- 大藤 夕海 (社会環境学科)
- 月足 美佳子 (社会環境学科)
- 真鍋 麻紀 (情報工学部)
- 山内 霧之介 (社会環境学科)
- 平成26年度福岡県大学準硬式野球春季、秋季リーグ戦個人表彰・ベストナイン
- 樋口 健斗 (電気工学部)
- 財津 光 (情報システム工学部)
- 第64回九州地区大学体育大会(インカレ)三段跳 3位
- 溝口 雅也 (知能機械工学部)
- 弓道北部リーグ男子個人戦優勝
- 炭矢 幸泰 (電気工学部)
- 弓道北部リーグ女子個人戦優勝
- 村山 みのり (情報通信工学部)
- 第35回九州学生アイスホッケーリーグ戦 II部リーグ 個人表彰
- 遠藤 紳之輔 (情報システム工学部)
- 第54回2014年全国大学対抗簿記大会団体戦3位
- 大熊 賢三 (社会環境学科)
- 源 智也 (社会環境学科)
- 藪 美有 (社会環境学科)
- 調 紀子 (社会環境学科)
- 坂本 涼 (社会環境学科)
- 福井 文香 (社会環境学科)
- 杉山 陽香 (社会環境学科)
- BIOMOD2014国際生体分子デザインコンテスト銅賞
- 山口 直哉 (生命環境科学専攻)
- 安楽 信哉 (生命環境科学部)
- 岩下 亮 (生命環境科学部)
- 黒木 厚佑 (生命環境科学部)
- 篠原 知香子 (生命環境科学部)
- 平中 芳樹 (生命環境科学部)
- 松村 萌絵 (生命環境科学部)
- 岡山 匠 (生命環境科学部)
- 佐世 美帆 (生命環境科学部)
- 第3回サイエンス・インカレ研究発表会コンソーシアム奨励賞
- 藤原 正幸 (情報システム工学部)
- 中山 貴彰 (情報システム工学部)

課外活動

■平成26年度クラブ・サークル加入者数

クラブ・サークル名	部員数	クラブ・サークル名	部員数	クラブ・サークル名	部員数
硬式野球部	114	アクションサッカー愛好会	47	自動車工学研究会	21
女子柔道部	4	硬式テニス同好会	25	音響部	35
ラグビー部	61	サイクリング同好会	17	写真部	61
アーチェリー部	17	サッカー同好会	46	情報技術研究会	71
合気道部	22	サバイバルスポーツ愛好会	12	環境サークルオアシス部	63
アイスホッケー部	14	男子柔道愛好会	8	フォークソング研究会	84
弓道部	30	相撲愛好会	11	モダンアート部	41
剣道部	14	ダーツ&ビリヤード同好会	27	ロック部	52
硬式テニス部	14	ダンス同好会	29	アカペラ同好会	38
サッカー部	23	トライアスロン同好会	11	サブカルチャー同好会	31
準硬式野球部	41	軟式野球同好会	46	天体愛好会	65
水泳競技部	17	バスケットボール愛好会	31	国際交流サークル同好会	115
ソフトテニス部	12	パワーリフティング同好会	7	保健愛好会	9
ソフトボール部	33	ハンドボール同好会	22	マルチメディアコミュニケーション同好会	8
卓球部	19	フットサル同好会	41	料理・スイーツ研究愛好会	19
テコンドー部	15	フットサル愛好会(ファンタジア)	14	ボランティアサークル Marching	24
バスケットボール部	29	楯円球愛好会	22	茶道同好会	8
バドミントン部	59	吹奏楽団	76	競技麻雀同好会	35
バレーボール部	20	オールラウンドミュージック部	78		
陸上競技部	3	音楽研究部	74		

加入者総計1,985名

■平成26年度モノづくりセンタープロジェクトメンバー数

プロジェクト名	メンバー数
電気自動車	12
ソーラーカー	11
ロボコン	19
小型衛星	14
ロボット相撲	8
手作りアクセサリ	7
ピオトープ	15
二足歩行ロボット	35
計	121

平成26年度資格取得実績

■教員免許取得者数

免許種類	科目	取得者数
高校専修	理科	1

免許種類	科目	取得者数
高校一種	数学	20
	理科	1
	工業	1
	情報	10
	公民	11

免許種類	科目	取得者数
中学校一種	数学	15
	理科	1
	社会	8

■資格取得実績・大学

資格名称	合格者数
パイオ技術者認定※	16
危険物取扱者免状(甲種)	3
危険物取扱者免状(乙種)	8
CAD利用技術者試験 2級	2
機械保全 機械系保全作業 2級	12
機械保全 機械系保全作業 3級	2
機械加工(普通旋盤作業) 3級	4
電気主任技術者(科目合格)	2
第一級陸上無線技術士	4
第一級陸上無線技術士(科目合格)	7
ITパスポート	24
LPIC	2
CCNA(ICND1)	8
CCNA(ICND2)	1

※上級・中級の合計

資格名称	合格者数
基本情報技術者	24
応用情報技術者	2
Webクリエイター上級	21
Webクリエイター初級	7
CG※	16
eco検定	19
公害防止 水質四種	2
公害防止(科目合格)	3
MOS検定	645
色彩検定 3級	14
医療事務検定	5
日商簿記検定 2級	3
日商簿記検定 3級	42
秘書検定準 1級	1
秘書検定 2級	23
秘書検定 3級	23

■資格取得実績・短大

資格名称	合格者数
CGエンジニア ベーシック	12
ITパスポート	6
MOS(Word)	1
MOS(Excel)	1
MOS(Excel Expert)	1
福祉住環境コーディネーター 3級	1
マルチメディア ベーシック	4
医科第 3 級医療事務技能検定	10
建築 CAD 検定 2 級	1
建築 CAD 検定 3 級	12
日商 PC 検定(データ活用) 2 級	1
日商 PC 検定(データ活用) 3 級	2
日商 PC 検定(データ活用) Basic	4
日商 PC 検定(文書作成) 3 級	3
日商 PC 検定(文書作成) Basic	11
日商 PC 検定(プレゼン資料作成) 3 級	4
日本語検定準 3 級	1
秘書検定準 1 級	1
秘書検定 2 級	13
秘書検定 3 級	8
日商簿記検定 2 級	2
日商簿記検定 3 級	13
色彩検定 2 級	1
色彩検定 3 級	6

国際交流

■国際交流協定校一覧

国名	大学名	締結年	協定内容					平成26年度交流学生数	
			教育研究 活動交流	学生交流	教育・研究者 交流	事務職員 交流	留学生 募集戦略	本学からの 派遣	協定校 学生の受入
米国	カリフォルニア州立大学イーストベイ校	2003	◎	◎	◎	◎	-	41	10
	オレゴン州立大学工学部	2002	◎	◎	◎	-	-	-	-
	フットヒルカレッジ	1992	◎	◎	◎	-	-	-	-
韓国	慶星大学校	1981	◎	◎	◎	◎	-	-	3
	亜州大学校	1990	◎	◎	◎	◎	-	-	-
	啓明大学校工学部	2009	◎	◎	◎	-	-	-	-
中国	大連理工大学	1988	◎	◎	◎	-	-	-	3
	南京理工大学	1993	◎	◎	◎	◎	-	12	28
	青島科技大学	2008	◎	◎	◎	◎	◎	-	7
	北華大学	2008	◎	◎	◎	◎	◎	-	1
タイ	キングモンクット工科大学	2008	◎	◎	◎	◎	◎	-	35
	チュラロンコン大学理学部	2009	◎	◎	◎	◎	-	-	-
豪州	フェデレーション大学	2001	◎	◎	◎	-	-	-	15
アルバニア	ティラナ工科大学	2009	◎	◎	◎	-	-	-	-

研究活動

■外部研究資金の取得実績推移

(単位:千円)

		H22	H23	H24	H25	H26
共同研究	金額	17,275	14,219	6,375	11,083	10,507
	件数	19	14	11	15	14
受託研究	金額	17,003	16,116	6,535	13,113	8,781
	件数	8	8	6	9	6
奨学寄付金	金額	7,467	3,500	5,133	500	7,949
	件数	6	5	5	1	9
科学研究費補助金	金額	45,850	43,030	60,970	53,690	71,310
	件数	25	29	40	39	41
その他外部助成金	金額	475	1,566	5,439	23,570	653
	件数	3	2	5	10	4
合計	金額	88,070	78,431	84,452	101,956	99,200
	件数	61	58	67	74	74

教育関係補助金の交付状況

■私立大学等経常費補助金の交付実績推移

(単位:千円)

区分	H22	H23	H24	H25	H26
一般補助	350,247	531,328	457,753	520,271	551,908
特別補助	382,202	99,322	94,815	96,906	137,690
合計	732,449	630,650	552,568	617,177	689,598

■平成26年度文部科学省補助金交付実績

(単位:千円)

文科省補助区分	事業名	交付額
産業界ニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業	地域力を生む自律的職業人育成プロジェクト	17,565
	中長期・実践型インターンシップ推進と教育的な指導体制の構築	1,407
大学間連携共同教育推進事業	産学協働による主体的学修の確立と中核的・中堅職業人の育成	9,265
	未来像を描く電気エネルギー分野における実践的人材の育成	5,380
大学教育再生加速プログラム	テーマ「アクティブ・ラーニング」	16,388
私立学校施設整備費補助金、私立大学等研究設備整備費等補助金	先端計測技術研究センター	24,600
	次世代材料開発技術者養成に資する計測センター設備拡充のためのSEM整備	37,893
	プロジェクト等マルチメディア活用のための設備拡充	13,069
	モーションキャプチャー装置システム一式	3,791
	高校等IT教育設備整備推進事業費	4,728
	高校等施設高機能化整備費	4,690
合計		138,776

附属施設

■図書館蔵書数 (平成27年5月1日現在) (単位:冊)

図書区分	蔵書数
和書	234,178
洋書	66,060
学術雑誌	1,749
AV資料	3,357
合計	305,344

■図書館利用者数推移 (単位:名)

利用者区分	H22	H23	H24	H25	H26
学内利用者	42,988	40,480	39,899	39,632	41,206
学外利用者	7,131	5,719	2,979	6,118	12,191
合計	50,119	46,199	42,878	45,750	53,397

■情報処理センター利用者数推移 (単位:名)

	H22	H23	H24	H25	H26
	35,195	23,783	33,202	31,878	33,614

■平成26年度エクステンションセンター受講者数

講座名	講座数	受講者数
資格取得支援講座	42	552
情報関連講座	42	71
文化教養講座	206	1,428
FIT講座	4	56
合計	294	2,107

■平成26年度モノづくりセンター利用者数

講座名	利用者数
学生プロジェクト	5,871
研究利用	410
一般利用	3,191
合計	9,472

校地・校舎

■校地・校舎概要

建物名	主な設備、用途	延床面積(m ²)	建築年
A棟	クリーンルーム、講義室27、演習室14、実験室16、研究室79、卒研室34	18,040	平成13年
B棟	学生サービスセンター、情報処理センター、レストラン、保健室、カウンセリング室、講義室19、演習室11、実験室11、研究室44、卒研室22	18,842	平成16年
C棟	地下ホール(収容人数300人)、学生ホール、レストラン、講義室8、実験室6、研究室27、卒研室23	10,303	平成3年
D棟	工作センター、講義室13、実験室11、研究室25、卒研室23	8,504	平成16年
α棟	モノづくりセンター、キャリアサポートセンター、多目的ホール(収容人数200人)、自習室	1,750	平成11年
本部棟	図書館、エクステンションセンター、フレッシュマンスクール、次世代マイクロ/ナノ金型開発センター、音とモノづくりの歴史資料館、事務局	12,735	昭和61年
FITアリーナ	シンフォニーホール(収容人数2,400人)、運動施設	5,470	平成12年
FITホール	多目的ホール(収容人数1,000人)、会議室	3,612	平成23年
坦心寮	男子寮(部屋数79、収容人数308人)	6,556	平成15年
コスモス寮	女子寮(部屋数107、収容人数141人)	3,833	平成5年
国際交流会館	留学生寮(部屋数27、収容人数50人)	1,102	平成4年
和白グラウンド	高校部活動用地他	32,297	昭和37年
新宮総合グラウンド	野球場、ラグビー場、アーチェリー場、他運動施設	40,655	昭和62年
塩浜総合グラウンド	野球場、室内練習場、ソフトボール場	38,188	平成24年
FITセミナーハウス	課外研修・宿泊施設	1,310	平成24年

財務状況

■資金収支計算書 (平成26年4月1日から平成27年3月31日まで) (単位:千円)

収入の部	科目	決算額
学生生徒等納付金収入		6,097,911
手数料収入		153,222
寄付金収入		35,037
補助金収入		1,451,629
資産運用収入		143,519
資産売却収入		3,000,000
事業収入		176,454
雑収入		524,531
前受金収入		1,975,924
その他の収入		504,044
資金収入調整勘定		△ 2,371,078
前年度繰越支払資金		1,996,151
収入の部合計		13,687,344

支出の部	科目	決算額
人件費支出		5,143,663
教育研究経費支出		1,713,991
管理経費支出		694,007
借入金等返済支出		60,000
施設関係支出		555,063
設備関係支出		510,355
資産運用支出		2,892,819
その他の支出		273,897
資金支出調整勘定		△ 206,918
次年度繰越支払資金		2,050,467
支出の部合計		13,687,344

■貸借対照表 (平成27年3月31日現在) (単位:千円)

資産の部	科目	平成26年度末残高
固定資産		31,798,460
有形固定資産		21,286,585
土地		3,469,770
建物		13,316,891
構築物		1,231,048
教育研究用機器備品		2,002,813
その他の機器備品		54,471
図書		1,105,665
車両		57,363
建設仮勘定		48,564
その他の固定資産		10,511,875
借地権		19,805
電話加入権		5,157
施設利用権		12,631
預託金		24,809
長期有価証券		2,219,472
退職給与引当特定資産		1,600,000
施設拡充引当特定資産		4,630,000
教育設備引当特定資産		500,000
第3号基本金引当特定資産		1,500,000
流動資産		2,658,462
現金預金		2,050,467
修学旅行預け金		19,753
未収入金		530,546
前払金		34,430
仮払金		23,266
資産の部合計		34,456,922

■消費収支計算書 (平成26年4月1日から平成27年3月31日まで) (単位:千円)

消費収入の部	科目	決算額
学生生徒等納付金		6,097,911
手数料		153,222
寄付金		59,759
補助金		1,451,629
資産運用収入		140,682
事業収入		176,454
雑収入		470,296
帰属収入合計		8,549,954
基本金組入額合計		△ 710,951
消費収入の部合計		7,839,003

消費支出の部	科目	決算額
人件費		5,049,841
教育研究経費		2,626,012
管理経費		760,697
資産処分差額		3,782
徴収不能引当繰入額等		12
消費支出の部合計		8,440,344
当年度消費支出超過額		601,341
前年度繰越消費支出超過額		3,634,098
基本金取崩額		0
翌年度繰越消費支出超過額		4,235,439

帰属収支差額 109,610

負債の部 (単位:千円)

科目	平成26年度末残高
固定負債	1,633,757
退職給与引当金	1,600,563
長期未払金	33,194
流動負債	2,566,085
短期借入金	60,000
未払金	168,965
前受金	1,975,924
預り金	322,918
仮受金	38,278
負債の部合計	4,199,842

基本金の部

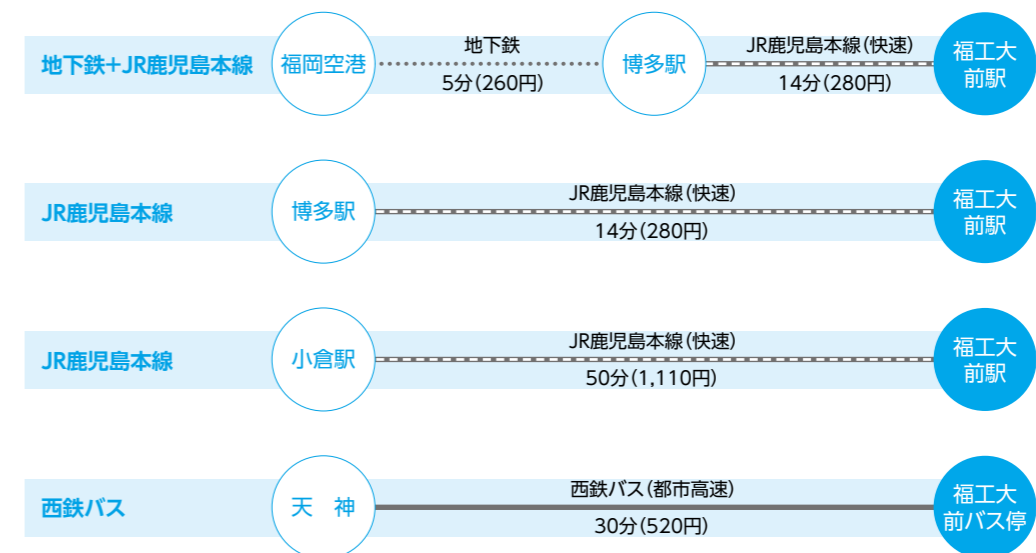
科目	平成26年度末残高
第1号基本金	32,488,519
第3号基本金	1,500,000
第4号基本金	504,000
基本金の部合計	34,492,519

消費収支差額の部

科目	平成26年度末残高
翌年度繰越消費支出超過額	4,235,439
消費収支差額の部合計	△ 4,235,439

負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計 34,456,922

減価償却額の累計額の合計額 11,167,994



※乗用車の場合…国道3号線から国道495号線へ進み和白方面へ

福岡工業大学

平成 26 年度

教育・研究活動報告書

取組成果のご報告

編集/福岡工業大学 IRプロジェクト

発行/平成27年7月

福岡工業大学

〒811-0295 福岡市東区和白東3丁目30番1号 TEL : 092-606-0619 FAX : 092-606-8923



For all the students

FIT Fukuoka Institute of Technology
福岡工業大学

工学部

電子情報工学科
生命環境科学科
知能機械工学科
電気工学科

情報工学部

情報工学科
情報通信工学科
情報システム工学科
システムマネジメント学科

社会環境学部

社会環境学科(文系)

大学院

工学研究科
社会環境学研究科

福岡工業大学短期大学部

情報メディア学科
ビジネス情報学科

福岡工業大学附属城東高等学校

普通科
電気科
電子情報科